

インテル® vPro®プラットフォームを エンドポイントの標準として採用し た場合の総経済効果™

エンドポイント標準としてのインテル® vPro®
プラットフォームによって実現される
コスト削減とビジネス上の利点

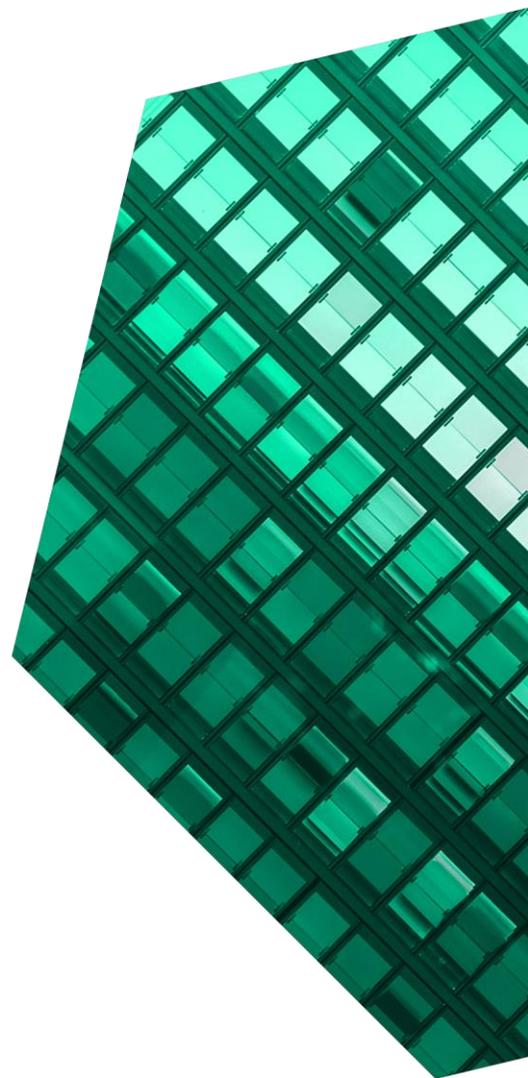
2024年1月

目次

エグゼクティブ サマリー	1
インテル® vPro®のカスタマージャーニー	7
主な課題	7
ソリューションの要件と投資目標	8
モデル組織	9
利益分析.....	10
より簡単なエンドポイントデバイスのセットアップと 継続的な管理。	10
ヘルプデスクのサポートチケットの減少	14
現場でのサポートの必要性の低減	17
ハードウェアの安定性を向上することによる従業員の 効率向上	19
削減された電力コスト	22
ハードウェア対応のセキュリティ	24
サードパーティ ソフトウェアおよびサービスコスト の削減.....	27
財務以外の定量的な利益: 温室効果ガス排出量の削減	29
追加の非定量的利益	32
柔軟性.....	33
コストの分析	36
インテル® vPro®ベースのデバイスのハードウェアコ ストの増加	36
追加のセキュリティチケットのための労働力	38
IT 担当者にインテル® vPro®の技術をトレーニングす るための人件費	40
財務サマリー	42
付録 A: Total Economic Impact.....	43
付録 B : インタビュー調査およびアンケート調査の統計 データ	44
付録 C: 補足情報.....	48
付録 D: 注釈.....	48

コンサルティング
チーム :

Chris Layton
Erach Desai
Tony Lam



エグゼクティブ サマリー

IT企業のリーダーは、従業員の生産性を促進し、小規模なITチームと予算でサポート可能なエンドポイントデバイスを提供する必要に迫られています。インテル® vPro®をエンドポイントの標準として維持しているIT企業へのインタビューとアンケート調査では、従業員のエクスペリエンスの向上、ITおよびヘルプデスクの労力削減、現場訪問の回避、ハードウェアセキュリティの向上、エネルギー使用の削減、温室効果ガスの低減、組織の柔軟性向上が明らかになっています。

インテル® vPro®プラットフォームは、ビジネス向けのノートPCおよびデスクトップPCに搭載された一連の技術で、高速プロセッサ、高度なBIOSレベルのリモート管理機能、ハードウェアの検証とサポート、組み込み型のエンドポイントハードウェア対応セキュリティを提供しています。この機能は、インテル® アクティブ・マネジメント・テクノロジー（インテル® AMT）、インテル® エンドポイント・マネジメント・アシスタント（インテル® EMA）、インテル® ステイブル・イメージ・プラットフォーム・プログラム（インテル® SIPP）、インテル® ハードウェア・シールドなど、インテル® vPro®ベースのデバイスに組み込まれ、インテル® vPro®プラットフォームに含まれる複数の技術によって実現されています。これらの技術はITグループや組織に合わせて拡張でき、環境内のエンドポイントデバイスの大半がインテル® vPro®ベースのデバイスである場合に特に効果的です。

Forrester Consultingは、インテルの委託により Total Economic Impact™（TEI、総経済効果）調査を実施し、企業がインテル® vPro®を標準エンドポイントプラットフォームとして導入することで実現し得る投資収益率（ROI）を調べました。¹ 本調査の目的は、エンドポイントの標準としてのインテル® vPro®が企業に与える可能性のある経済的影響を評価するためのフレームワークを読者に提供することです。

Forresterは、この投資による利益、コスト、リスクについて詳細に調査するため、インテル® vPro®をエンドポイントの標準として使用した経験のある5つの組織の代表者7人、そして回答者500人にアンケート調査を実施しました。² この調査の目的のため

主な統計データ



投資利益率(ROI)

213%



正味現在価値(NPV)

294万ドル

に、Forresterはインタビュー対象者とアンケート調査回答者の経験を集計し、その結果を従業員10,000人、年間売上10億ドルの組織である単一のモデル組織にまとめました。

これらのインタビュー対象者は、インテル® vPro®を利用する前に、従業員とIT部門の生産性を維持し、セキュリティの脆弱性を回避して、マルチベンダーのエンドポイントデバイスの保守と導入に関連するIT部門のオーバーヘッドを削減するために、組織がいかにかつ苦しんでいたかを語っています。しかし、これまでの試みでは成功は限られ、組織には膨大なITコスト、浪費された従業員の時間、そして安全な環境を維持する難しさが残りました。

インテル® vPro®をエンドポイントの標準として維持することを選択することにより、インタビュー対象組織はIT部門と非IT部門の従業員の時間を解放し、エンドポイントの管理をよりシンプルにし、現場訪問を減少させ、セキュリティ侵害とコストを回避しました。

主な調査結果

定量化された利益。 モデル組織のリスク調整後の3年間の現在価値(PV)で示す定量化された利益には、以下が含まれます。

- **より簡単なエンドポイントデバイスのセットアップと継続的な管理。** モデル組織内の IT 担当者は、インテル® vPro®ベースのデバイスをインテル以外のデバイスよりも 30%早く導入できます。さらに、インテル® vPro®ベースのデバイスはハードウェアの問題が少なく、解決を早める技術を備えているため、エンドポイントデバイスの継続的な管理に費やす時間を 65%削減できます。このように IT 関連の労力が削減されるため、モデル組織には3年間で170万ドルの価値がもたらされます。
- **ヘルプデスクのサポートチケットの減少。** IT 担当者と同様、モデル組織のヘルプデスクは、エンドポイントのハードウェア関連のチケットを40%削減し、時間を削減しています。このチケットの削減により、モデル組織は3年間で776,000ドルを節約することが可能です。
- **現場サポートの必要性の低減。** 従業員がインテル® vPro®ベースのデバイスを使用することで、IT 担当者はエンドポイントのハードウェアに関わる現場訪問の90%を回避できます。移動と IT 担当者の時間の削減は、モデル組織にとって3年間で100万ドルに相当します。
- **ハードウェアの安定性を向上することによる従業員の効率性向上。** モデル組織は、ハードウェア関連の問題が少なく、残りの問題をすばやく解決できるエンドユーザーの従業員から価値を

ハードウェアに関わる現場
訪問を回避

90%



「ノート PC、デスクトップ PC、タブレットのどの構成でも、(インテル) vPro が必要です。優れた技術と必要な機能を提供してくれたおかげで、長年にわたって大きな成果を得ることができました。」

政府機関、フロントエンドサポートマネージャー

得ます。これにより、モデル組織は3年間で189,000ドルの価値を得ることができます。

- **削減された電力コスト。** インテル® vPro®ベースのデバイスは、インテル® vPro®ベース以外の同等のデバイスと比較して消費電力を15%削減し、モデル組織の電力コストを3年間で70,000ドル削減します。
- **ハードウェア対応のセキュリティ。** このモデル組織では、侵害が23%減少し、侵害調査に費やす時間が35%減少しました。この改善の10%から12%は、インテル® vPro®の技術によって実現される他のセキュリティ慣行に加えて、インテル® vPro®のハードウェア対応セキュリティによるものです。この減少分のうち、インテル® vPro®による3年間の削減額は338,000ドルに相当します。
- **サードパーティ ソフトウェアおよびサービスコストの削減。** インテル® vPro®に含まれる技術により、モデル組織はリモート管理、テレメトリ、ハードウェアセキュリティのためにサードパーティ ソフトウェアを購入または拡張する必要がなくなり、3年間で224,000ドルを削減できます。
- **炭素排出量の削減。** このモデル組織は、インテル® vPro®ベースの環境を活用して、さらに炭素排出を回避しています。これは、エンドポイン

トデバイスあたりのエネルギー使用量を削減し、現場訪問回数を減らすことで達成され、モデル組織は3年間で368,000 kgの炭素排出を回避できます。

数値化できない利益。 本調査では定量化は行われなかったものの、モデル組織に価値をもたらすその他の利益は以下のとおりです。

- **中核事業の収益の保護。** IT担当者は、専門的な知識や許可を必要とするリモートデバイスにリモートでアクセスし、それぞれの現場の運用停止時間を短縮できます。
- **従業員体験の向上。** 従業員は、業務を中断することが少なくなり、デバイスのパフォーマンスが向上することで、生産性が向上し、より良い職場体験をすることができます。
- **デバイスのリセールバリューの向上。** このモデル組織は、インテル® vPro®ベースのWindowsデバイスを、インテル® vPro®以外のWindowsデバイスよりも高い価格でリセールし、キャッシュフローを増やしています。

「(インテル) vPro で何ができるのかを初めて知ったとき、まさにこれだと思いました。探していた解決策が見つかった瞬間でした。」
政府機関、フロントエンドサポートマネージャー

- **より効率的なパートナーシップを実現。** マネージドサービスプロバイダー(MSP)も、モデル組織がアクセスを許可することにより、インテル® vPro®の技術にアクセスできます。これにより、MSPはモデル組織により効率的にサービスを提供できるようになります。
- **顧客の維持。** 重大な侵害が少ないため、モデル組織はより多くの顧客を維持することができます。また、復旧までの時間が短縮され、顧客の信頼を保護できるというメリットもあります。
- **エコシステムの信頼保護。** 顧客の信頼と同様に、モデル組織は、インテル® vPro®のハードウェア対応セキュリティによって、エコシステムパートナーの信頼をより適切に保護することができます。これにより、サプライチェーンと業界全体で、より良い作業関係とセキュリティの評判という長期的なメリットが組織にもたらされます。

コスト。 組織のリスク調整後の3年間のPVコストには以下が含まれます。

- **インテル® vPro®ベースのデバイスのコスト増加。** インテル® vPro®ベースのデバイスは、最初は1台あたりのコストが高く、更新時に追加投資が必要になります。3年間のデバイスにかかる割増額を合計すると、複合組織の追加費用は120万ドルになります。
- **追加のセキュリティチケットにかかった労力。** インテル® vPro®のハードウェア対応セキュリティは、警告された脅威から補足的なセキュリティ

「(インテルの) vPro を採用したのは、デバイス内部に対してハードウェア標準が確立されていたからです。どのような機能が得られるかを前もって知っていましたし、OEMが途中でハードウェアを変更したりすることはありませんでした。(インテル® vPro®)にしたのは、OEMが提供する機能を把握していたからです。」

航空会社、シニアシステムエンジニア

チケットを出します。これには、IT 担当者が調査するための追加の時間が必要であり、3 年間で 19,000 ドルの人件費がかかります。

- **IT 担当者にインテル® vPro®の技術をトレーニングするための人件費。** IT 担当者がインテル® vPro®の技術を効果的に使用するには、最初の 3~5 日間トレーニングが必要です。この初期の人件費と新規の IT 担当者にかかる人件費は、モデル組織の 3 年間で 168,000 ドルに相当します。

インタビュー調査とアンケート調査に基づく財務分析の結果、モデル組織の場合、3 年間で 138 万ドルのコストに対して 432 万ドルの利益を計上し、正味現在価値(NPV)は 294 万ドル、投資利益率(ROI)は 213%を達成すると算出されます。



投資利益率
(ROI)
213%



利益の現在価値
(PV)
432 万ドル

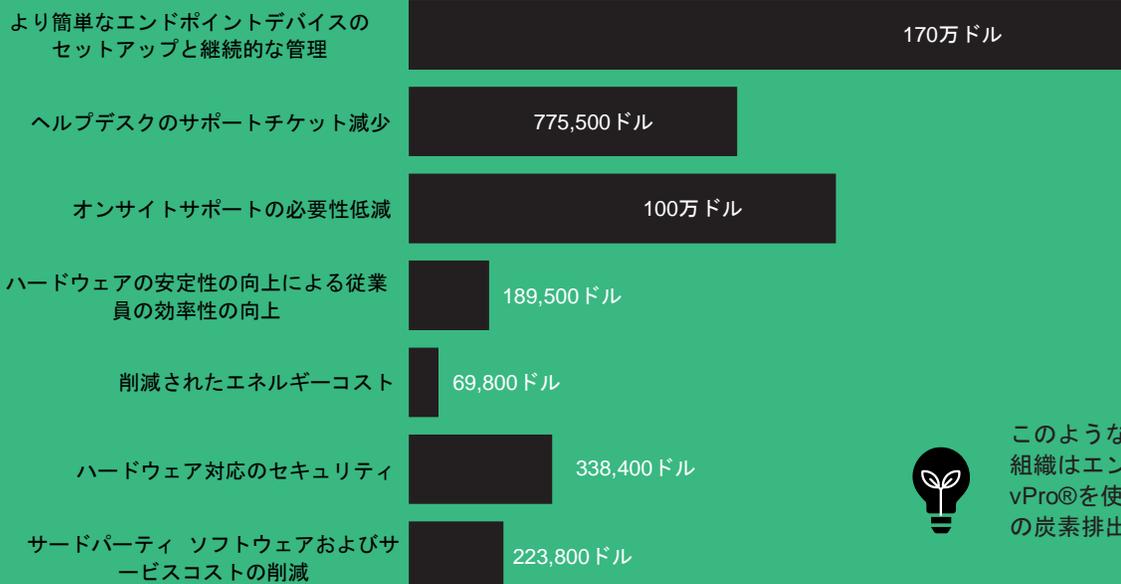


デバイスの
管理時間
65%縮小



ハードウェアに
関わる現場訪問
90%縮小

利益（3年間）



このような金銭的なメリットに加えて、モデル組織はエンドポイントの基準としてインテル® vPro®を使用することで、3年間で 368,000 kg の炭素排出を削減します。

「（インテルの）vPro デバイスは通常のデバイスよりも少し高価ですが、金銭面でも金銭以外の面でも多くのメリットがあります。（インテル® vPro®）デバイスに投資すれば、ROIが向上します。」

— 教育関連、最高情報責任者(CIO)

TEIのフレームワークと方法

インタビュー調査とアンケート調査で得られた情報をもとに、Forresterは、インテル® vPro®への投資を検討している組織向けに Total Economic Impact™ フレームワークを構築しました。

このフレームワークは、投資決定に影響を及ぼすコスト、利益、柔軟性、リスク要因を特定することを目的としています。Forresterはインテル® vPro®が組織にもたらし得る影響を、多段階アプローチを使用して評価しました。

Forrester Consultingは、米国、英国、カナダ、ドイツ、オーストラリアのグローバル企業のサイバーセキュリティ担当者351人にオンラインアンケート調査を実施しました。調査の参加者には、サイバーセキュリティの意思決定、オペレーション、報告を担当するマネージャー、ディレクター、VP、経営幹部が含まれます。参加者に提供された質問は、担当者のサイバーセキュリティ戦略および組織内で発生した侵害を評価することを目的としました。参加者は、2020年11月にForresterの代理として実施されたサードパーティの調査パネルを通じて調査に参加しました。

開示事項

以下の点にご注意ください。

本調査はインテルの依頼により、Forrester Consultingが実施しました。競合分析として使用されることを意図したものではありません。

Forresterは、他の組織が得られる可能性のあるROIについては一切想定していません。インテルへの投資の妥当性を判断するにあたり、本調査で提供されているフレームワークに読者自身の予測を適用することを強く推奨します。

インテルは本調査の報告内容を確認した後、Forresterにフィードバックを提供しました。ただし、本調査の内容と結果についてはForresterが編集する権限を有し、Forresterの見解と矛盾する変更や調査の意味を曖昧にする変更は承認していません。

インテルはインタビュー調査を行う顧客名を提供しましたが、インタビュー調査には参加していません。

Forresterは第三者機関のアンケートパートナーを活用し二重盲検オンライン調査を行いました。



デューデリジェンス

インテル関係者およびForresterアナリストにインタビューを行い、インテル® vPro®に関連するデータを収集しました。



インタビューおよびアンケート調査

インテル® vPro®を使用する5つの組織の代表者7人からインタビュー調査を行い、また、500人の回答者にアンケート調査を実施して、コストや利益、リスクに関するデータを取得しました。



モデル組織

インタビューとアンケート調査の回答者の特性に基づいてモデル組織を作成しました。



財務モデルのフレームワーク

TEI手法を使用してインタビューとアンケート調査結果から財政モデルを構築し、インタビューおよびアンケート回答者の課題と懸念に基づいて財政モデルをリスク調整しました。



ケーススタディ

TEIの4つの基本要素である利益、コスト、柔軟性、リスクに基づいて投資がもたらす影響をモデル化しました。IT投資に関連するROI分析が高度化しているなか、ForresterのTEI手法は購入判断時に参考にするための総経済効果の全体像を提供します。TEI手法の詳細については付録Aをご参照ください。

インテル® vPro®のカスタマージャーニー

■ エンドポイントの標準としてのインテル® vPro®への投資につながる要因

主な課題

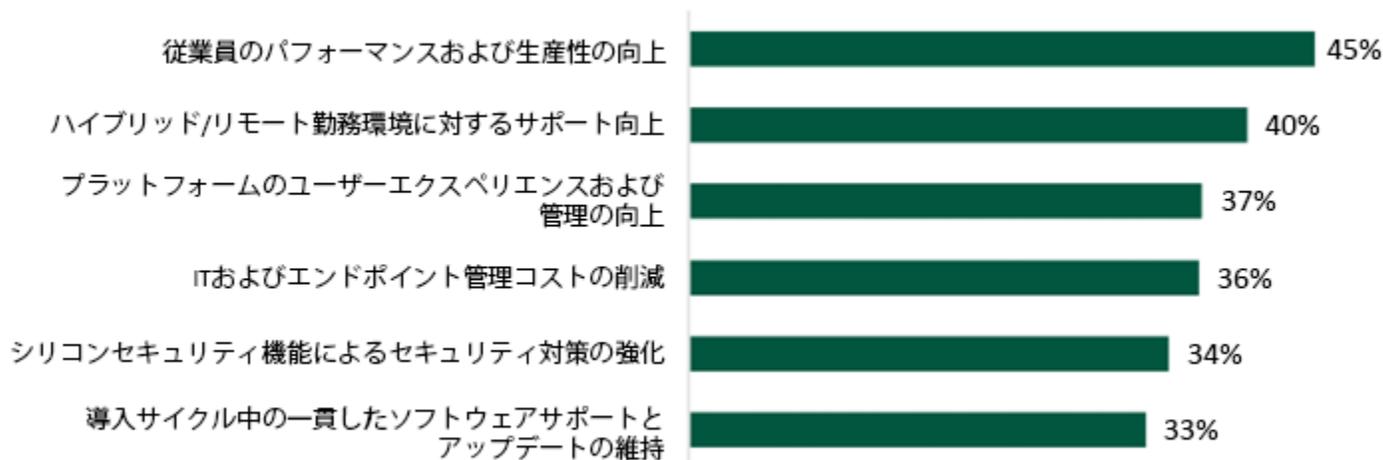
Forrester は、インテル® vPro®をエンドポイントの標準として使用した経験のある5つの組織の代表者7人、そしてアンケート回答者500人にインタビュー調査を実施しました。これらの調査対象者およびその所属組織の詳細については、[付録B](#)をご参照ください。

インテル® vPro®をエンドポイントの標準として使用する前、組織の環境はさまざまなチップセットやデバイスで断片化された状態でした。こうした複雑な課題に対処するため、組織は規模の大きいデバイスサポートチームを抱えていました。さらに、これらのデバイスにはBIOSレベルのリモートサポート技術が含まれていなかったため、リーダーは、現在の技術ではリモート修理が不可能なデバイスを修理するために、頻繁に現場訪問することを計画していました。

インタビューおよびアンケート調査の対象企業に共通してみられた課題には、以下のようなものがありました。

- 従業員のパフォーマンスおよび生産性を向上させたいという意欲。IT企業の意思決定者にとっての最大の関心事は、従業員がどこにいても組織が容易にサポートおよび管理できる安定したハードウェアを従業員に提供することでした。「調査対象となるIT企業の意思決定者に、エンドポイントの標準としてインテル® vPro®を選択した理由を尋ねたところ、「従業員のパフォーマンスと生産性の向上」が最も多く挙げられました。³また、エンドポイントデバイスに問題があるために従業員の生産性が低下したり、IT部門がリモート管理に苦戦したりした場合のビジネスへの影響についても指摘がありました。
- 断片化したデバイスのエコシステムでの画像化・導入の複雑さと難しさ。非常に多くの種類のインテル® vPro®以外のチップセットとハードウェア構成が存在するため、何十もの画像を継続的に作成、検証、保守する必要がありました。多くのデバイスがインテル® vPro®以外であったため、ハードウェア構成は大きく異なり、頻繁に再作成する必要がありました。そのため、従業員に正常で安定したエンドポイントデ

「インテル® vPro®を標準プラットフォームとして採用することで、どのような課題または組織の目標に対処しようとしていましたか？」



対象: グローバルIT企業における意思決定者500人とインテル® vPro®の顧客
出典: インテルの委託によるForrester Consulting実施の調査。2023年7月。

バイスを提供するための IT 担当者の負担がさらに増加しました。調査回答者の合計 36%が、IT およびエンドポイントの管理コストを削減するためにインテル® vPro®を選択しました。⁴

- **継続的なデバイス管理に関する定期的な課題。** インテル以外の vPro ベースのデバイスを最初に導入した後も、チームは従業員やリモートデバイスが壊れたり、ハードウェア障害が発生することがあり、サポートレベルを上げる必要がある点で苦労していました。これにより、IT グループの負担がさらに増加するだけでなく、エンドポイントデバイスが動作しないと従業員の効率も低下します。

「(インテル) vPro は、適切な技術を使用して効率を向上させ、エラー率を削減することを目的としています。」

教育関連、最高情報責任者(CIO)

- **リモートワークやハイブリッドワークへの対応の難しさ。** IT 企業の意味決定者を対象としたインタビューと調査では、オフィスや企業ネットワークの外でフルタイムまたはハイブリッドで働いている従業員の多くのグループが苦労していることが明らかになりました。このため、IT グループはより多くのエンドポイント機器をリモートで管理する必要があり、従業員が効率的に作業できるかどうか懸念されていました。調査対象となった IT 企業の意味決定者の間では、「ハイブリッド/リモートワークフォースのサポートの向上」も頻繁に目標として挙げられており、エンドポイントの標準としてインテル® vPro®を選択した理由を尋ねたところ、40%がこの点を挙げました。⁵

- **エンドポイントのセキュリティと企業資産の保護に関する懸念。** リモートで働く従業員の数が増加し、さまざまなネットワークにアクセスするようになってから、エンドポイントデバイスの保護は組織にとって非常に困難になりました。さらに、ランサムウェアなどのサイバー攻撃が頻繁に発生するようになったため、IT グループは、ハードウェアを活用したセキュリティなどの予防対策にさらに投資する必要性がありました。⁶ 調査回答者の約 3 分の 1 が、セキュリティ態勢を改善するための標準プラットフォームとしてインテル® vPro®を選択しました。⁷
- **事業運営への支障。** 組織が諸地域に拡大するにつれて、IT 担当者は、顧客のキオスク端末やその他の端末など、ビジネス運用に不可欠な場所全体でエンドポイントデバイスを維持する任務を負っていました。インタビューの対象となった IT 企業の意味決定者にとっての主な懸念は、リモートデバイスが直面する問題の解決時間を短縮し、ビジネスの運用の混乱を緩和することでした。

「長年にわたってインテル(vPro)を使っていますが、個人的な経験からすると、わずかな例外を除いて (インテル以外の Windows は) 決してインテルと競り合ったことはありませんでした。」

金融サービス部門、ハードウェアディレクター

ソリューションの要件と投資目標

インタビュー対象者とアンケート調査の回答者は以下のことが可能なソリューションを探しました。

- BIOS レベルのリモート管理機能を提供することで、エンドポイントデバイスの電源を入れる必

要はなく、デバイスのユーザーが解決プロセスに関与する必要もありません。

- 従業員の効果を向上させるためには、エンドポイントデバイスの故障を減らし、より迅速な解決を実現することが重要です。
- アーキテクチャとハードウェア構成を標準化して、ITグループが作成・保守を担当する画像の数を大幅に削減します。

複数ベンダーを評価する提案依頼(RFP)とビジネスケースのプロセスを経て、インタビュー対象企業はインテル® vPro®を選択し、導入を開始しました。

インタビュー対象企業は通常、インテル® vPro®ベースのデバイスを段階的なアプローチで導入し、3~4年かけてインテル® vPro®以外の古いデバイスを更新しています。

モデル組織

インタビュー調査とアンケート調査に基づいて、ForresterはTEIフレームワーク、モデル組織を構築し、ROI分析により、財務的な影響を受ける領域を示しました。モデル組織とは、5人のインタビュー対象者と500人のアンケート回答者が所属する組織を、集散的にモデルとして便宜的に1つの組織としてまとめたものです。以下のセクションで財務分析の総合結果を表すためにこのモデル組織を使用しています。このモデル組織には以下の特徴があります。

モデル組織の概要。 世界で数十億ドル規模のB2C組織には、10,000人の従業員が世界中に分散しています。顧客にサービスを提供するために、モデル組織は主要市場で1,000台のリモート対応のキオスク端末を使用しています。従業員はハイブリッド環境とリモート環境が混在しており、すべての従業員がWindowsベースのインテル® vPro®のノートPCとデスクトップPCのエンドポイントデバイス（各従業員が1つのエンドポイントデバイスを持つ）で主要な作業タスクを実行します。ITグループは中央に配置され、インテル® vPro®の技術を活用してエンドポイントデバイスやリモート対応のキオスク端末をリモートで管理します。

導入の特徴。 このモデル組織は、エンドポイントの標準としてインテル® vPro®を15年間維持しており、平均3.5年に一度、エンドポイントデバイスを更新しています。

主な想定内容

- 従業員 1 万人
- 1,000 台の顧客向けリモートデバイスを追加
- エンドポイントデバイスの 100%がインテル® vPro®ベース

利益分析

■ モデル組織に適用される定量的利益データ

総ベネフィット

参照コード	ベネフィット	1年目	2年目	3年目	合計	現在価値
Atr	より簡単なエンドポイントデバイスのセットアップと継続的な管理	\$690,570	\$690,570	\$690,570	\$2,071,710	\$1,717,345
Btr	ヘルプデスクのサポートチケットの減少	\$311,850	\$311,850	\$311,850	\$935,550	\$775,525
Ctr	現場でのサポートの必要性の低減	\$405,603	\$405,603	\$405,603	\$1,216,809	\$1,008,675
Dtr	ハードウェアの安定性の向上による従業員の効率性の向上	\$76,194	\$76,194	\$76,194	\$228,582	\$189,483
Etr	削減された電力コスト	\$28,050	\$28,050	\$28,050	\$84,150	\$69,756
Ftr	ハードウェア対応のセキュリティ	\$136,063	\$136,063	\$136,063	\$408,189	\$338,368
Gtr	サードパーティ ソフトウェアおよびサービスコストの削減	\$90,000	\$90,000	\$90,000	\$270,000	\$223,817
	総利益（リスク調整後）	\$1,738,330	\$1,738,330	\$1,738,330	\$5,214,990	\$4,322,969

より簡単なエンドポイントデバイスのセットアップと継続的な管理。

エビデンスとデータ。インテル® vPro®には、ITチームがインテル® vPro®のノート PC およびデスクトップ PC をより効率的に導入・管理できるようにする多くの技術が搭載されていると、インタビュー対象企業はコメントしています。例えば、インテル SIPP は、ハードウェアとエンドポイントデバイスの一貫性を保証することで、IT グループが維持する必要のある企業イメージの数を削減しました。インテル・アクティブ・マネジメント・テクノロジー（インテル AMT）により、IT グループはインテル® vPro®ベースのデバイスをハードウェアベースで管理することにより、ソフトウェアレベル以下の問題に対処できるようになりました。さらに、インテル EMA は、デバイスが既知の Wi-Fi ネットワーク上がない場合や企業のファイアウォールを越えている場合でも、管理者がインテル・アクティブ・マネジメ

「インテル® vPro®のイメージングと導入は、ほぼ3倍速くなりました。」

教育関連、最高情報責任者(CIO)

ント・テクノロジー（インテル AMT）をリモートで管理できるようにしました。

- エンドポイントの標準としてインテル® vPro®に移行した後、政府機関はエンドポイントデバイス用のイメージの作成を年4回ではなく年に1回だけで住むようになりました。これにより、IT グループは毎年約3週間の労力を削減できました。
- ある金融サービス機関の IT 部門は、イメージを頻繁に再構築する必要がなかったため、月に 250

件のエスカレーションを回避しました。一年間で、イメージングのインシデント数が減少したため、組織は約 250,000 ドルを削減しました。インシデントがエスカレートするたびに、平均 85 ドルのコストがかかっていました。

- ある教育機関は、エンドポイントの標準としてインテル® vPro®に移行した結果、サポートが必要なデバイスの割合が毎月 3%~5%からわずか 1%まで減少し、ハードウェア関連のサポートチケットの数が 67%から 80%減少しました。
- ある教育機関は、インテル® vPro®によってソフトウェアレベルではなくハードウェアレベルで問題に対処できるようになり、エスカレートされた通話の解決時間を 40%短縮することができました。
- ある金融機関は、エンドポイントの標準をインテル® vPro®に移行した後、エンドポイント管理チームの規模を 20FTE（フルタイム当量）からわずか 10FTE に縮小することができました。エンドポイントデバイスの企業内数は継続的に増加していましたが、全体的なエンドポイントデバイス管理に必要な総人件費は 50%以上減少し、週ごとの FTE あたりの作業時間は 20 時間以上減少しました。

「以前は 20 人でこの（エンドポイント管理の）部門を運営していましたが、インテル® vPro®では 10 人で済むようになりました。」

金融サービス部門、ハードウェアディレクター

- アンケート回答者の中で、自身が所属する組織がエンドポイントの標準としてインテル® vPro®を使用している人のうち、87%がより速いデバイスの認証と導入を可能にしたと回答し、86%

「30 日間に 250 件のインシデントが発生しましたが、サポートに連絡することなく解決しました。すべて、VPN なしで（インテル® vPro®を）使ってマシンにリモートアクセスできたためです。」

金融サービス部門、IT アーキテクチャエグゼクティブアドバイザー

がパッチの効率向上に寄与したと回答しました。⁸

- 調査回答者の総数のうち、89%が「インテル® vPro®を標準として使用することで、IT 管理とサポートが簡単になった」と報告しました。⁹ 同じ回答者は、IT 担当者がインテル® vPro®ベースのエンドポイントデバイスの管理に費やす時間が、インテル® vPro®ベースでないデバイスと比較して平均 54%短くなったと報告しています。¹⁰

モデル化と想定。 Forrester は、インタビューとアンケート調査データを活用して、モデル組織の財務的影響をモデル化し、以下のように想定しています。

- このモデル組織は 11,000 台のデバイスを維持しており、そのうち 10,000 台は 10,000 人の従業員向けのエンドポイントのノート PC とデスクトップ PC です。さらに、1,000 台のリモート対応のキオスク端末がインテル® vPro®とともに導入され、顧客が使用しています。デバイスは平均 3.5 年ごとに更新されます。
- インテル® vPro®ベースのデバイスを導入する際、IT 担当者はインテル® vPro® ベース以外のデバイスと比較して、30%短い時間で導入を完了できます。これにより、各デバイスの導入にかかる時間を 30 分短縮できます。
- インテル® vPro®ベースのデバイスを管理する際、インテル® vPro®以外のデバイスと比較し

て、時間の管理が65%短縮されます。インテル® vPro®導入前、70人のIT担当者はエンドポイントデバイスの管理に平均して週に12時間を費やしていました。インテル® vPro®をエンドポイントの標準とすることで、1FTEあたり週平均8時間短縮されます。

- IT担当者の平均的な給与は、完全負担給与で1時間あたり50ドルです。
- 削減された時間のうち、IT担当者は50%をより価値の高いタスクに振り向けることができます。これらのタスクからはおそらくより大きな価値が得られる可能性があります。この分析では削減された時間の価値を保守的に1時間あたり50ドルで数量化しています。

リスク: Forresterは、これらの結果が必ずしもすべての体験を表している訳ではなく、その影響はいくつかの要因によって異なることを認識しています。

- 組織がすでに画像の作成と管理の効率向上のために追加のツールやプログラムに投資している場合、インテル® vPro®を使用した導入の効率向上が同じく得られない可能性があります。
- 同様に、すでに高度な管理能力を構築している組織は、エンドポイントの標準としてインテル® vPro®を使用しても、同じ規模の改善は見られないかもしれません。しかし、インテル® vPro®に含まれる機能は、サードパーティのサービスを陳腐化させ、**コスト削減に直結する**可能性があります。

結果。これらのリスクを反映させるため、Forresterはこの利益を10%下方修正し、3年間のリスク調整後のPV総額（10%割引）を170万ドルとしました。

より簡単なエンドポイントデバイスのセットアップと継続的な管理。

参照コード	指標	ソース	1年目	2年目	3年目
A1	インテル® vPro®ベースのデバイス数	モデル組織	11,000	11,000	11,000
A2	デバイスの更新頻度（年）	モデル組織	3.5	3.5	3.5
A3	インテル® vPro®ベースのデバイスの年間導入台数	A1/A2	3,143	3,143	3,143
A4	インテル® vPro®ベース以外のデバイスの導入にかかる時間	アンケート調査	1.7	1.7	1.7
A5	インテル® vPro®ベースのデバイスの導入時間の短縮	アンケート調査とインタビュー	30%	30%	30%
A6	インテル® vPro®ベースのデバイス 1 台の導入にかかる時間を短縮	A4*A5	0.5	0.5	0.5
A7	小計: インテル® vPro®導入の高速化によって削減された合計時間	A3*A6	1,572	1,572	1,572
A8	エンドポイントデバイスを管理する IT 部門の FTE 数	モデル組織	70	70	70
A9	インテル® vPro®ベース以外のデバイスを管理する IT FTE あたりの週当たりの時間	アンケート調査	12	12	12
A10	インテル® vPro®ベースのデバイスの管理時間の短縮	アンケート調査とインタビュー	65%	65%	65%
A11	インテル® vPro®ベースのデバイスを管理する IT 部門の FTE/週あたりの削減時間（四捨五入）	A9*A10	8	8	8
A12	小計: インテル® vPro®ベースのデバイスを管理するために削減した時間の合計	A8*A11*52 週	29,120	29,120	29,120
A13	IT 部門の FTE（完全負担）の時給	モデル組織	\$50	\$50	\$50
A14	再取得時間	モデル組織	50%	50%	50%
At	より簡単なエンドポイントデバイスのセットアップと継続的な管理	(A7+A12)*A13* A14	\$767,300	\$767,300	\$767,300
	リスク調整	↓10%			
Atr	より簡単なエンドポイントデバイスのセットアップと継続的な管理（リスク調整後）		\$690,570	\$690,570	\$690,570
3年間の合計: 2,071,710 ドル			3年間の現在価値: 1,717,345 ドル		

ヘルプデスクのサポートチケットの減少

エビデンスとデータ。インテル® vPro®のノート PCに関してエスカレーションされた問題が減少したことに加えて、インタビュー対象者は、エンドポイントの標準としてインテル® vPro®に移行した後、組織のヘルプデスクセンターがエンドポイントハードウェアの問題に関連する電話やサポートチケットを受け取ることが少なくなったことにも気付きました。

- ヘルプデスクのサポートチケットの減少は、エスカレーションされたチケットの減少を若干下回りました。これは、以前はエスカレーションが必要だった多くの問題が、今ではインテル EMA を使用してリモートで一般的な問題を修復できるので、ヘルプデスクのレベルで解決できるようになったためです。インテル® vPro®を使用する前に、これらの一般的な問題を解決するには、IT 担当者が別のツールを使用する必要がありました。
- ある金融サービス組織では、ヘルプデスクの従業員にインテル EMA へのアクセスを許可することで、インテル® vPro®を使用して、多くのサポートリクエストをレベル 2 ではなくレベル 1 のチケットとしてヘルプデスクに転送できることが判明しました。サポートリクエストがあるたびに、レベル 1 のチケットは解決に約 10 ドルかかるのに対し、レベル 2 のチケットは 85 ドル近くかかるため、組織は約 75 ドルを削減できました。
- エンドポイントの標準としてインテル® vPro®を使用したアンケート回答者のうち、80%がサポートチケットの削減につながると回答しています。¹¹

モデル化と想定。 Forrester は、インタビューと調査データを活用して、モデル組織の財務的影響をモデル化し、以下のように想定しています。

- このモデル組織では、エンドポイントの標準として 11,000 台のインテル® vPro®ベースのデバイスを維持しており、10,000 人の従業員が 10,000 台のエンドポイントのノート PC とデス

「(インテル) vPro には経済的なメリットがあり、これらはすべて (インテル) vPro の投資収益率 (ROI) に還元できます。IT サポートには、年間 2 名のフィールドサポート FTE を削減できています。サービスデスクでも、3 人分の FTE をさらに削減できています。したがって、より多くの問題をより効率的に解決することができます。」

教育関連、最高情報責任者 (CIO)

クトップ PC を使用しています。さらに、1,000 台のインテル® vPro®ベースのリモート対応のキオスク端末デバイスが顧客用に導入されています。デバイスは 3.5 年半ごとに更新されます。

- インテル® vPro®では、デバイスの安定性が向上したため、デバイス管理関連のヘルプデスクチケットが 40%削減されました。これにより、デバイスあたりのヘルプデスクチケットの年間平均数が 0.7 削減されます。
- サポートデスクチケットは、コールセンターの従業員によって応答および解決され、IT 担当者によって解決されるエスカレーションされた問題とは別のものです。これはこの分析で **すでに数値化**されています。
- 控え目な見積もりとして、この分析では、デバイス管理関連のヘルプデスクチケットの解決にかかる時間が、インテル® vPro®ベースではないデバイスの場合とインテル® vPro®の場合で同じであると仮定しています。これは、インテル® vPro®を使用せずに IT 担当者にエスカレーションする場合と比べて、インテル® vPro®を使用した方が最初のヘルプデスクの段階でより複雑な問題を解決できるためです。

- 完全負担給与を考慮したヘルプデスク従業員の平均時給は 30 ドルです。

リスク: Forrester は、これらの結果が必ずしもすべての体験を表している訳ではない可能性があり、その影響はいくつかの要因によって異なることを認識しています。

- インタビュー対象者は、インテル® vPro®によってヘルプデスクの従業員が頻繁に問題をエスカレーションする必要なく、自分たちで問題を解決できるようになったと話しています。ヘルプデスクの従業員の能力によって異なりますが、一部の IT 部門のリーダーは、インテル® vPro®を使用した場合、ヘルプデスクの従業員がエンドポイントハードウェアの問題を解決するのにより多くの時間を費やす可能性があります。これにより IT 担当者が解放され、ネットサポートコストが減少する一方で、ヘルプデスクの労働力が単独で増加する可能性があり、減少する可能性はないことに留意すべきです。
- ハードウェアの問題に悩まされている組織は、ハードウェアの問題がほとんどない組織に比べて、ヘルプデスクの従業員にとってインテル® vPro®のメリットが大きくなります。

結果。 これらのリスクを反映させるため、Forrester はこの利益を 10% 下方修正し、リスク調整後の 3 年間の現在価値(PV)を 776,000 ドルとしました。

「(インテル) vPro をベースとすることは、メーカーにとっての最高基準です。そのため、より高品質の機器を購入することができ、故障や不具合も他よりずっと少なくなります。」

金融サービス部門、ハードウェア
ディレクター

ヘルプデスクのサポートチケットの減少

参照コード	指標	ソース	1年目	2年目	3年目
B1	インテル® vPro®ベースのデバイス数	モデル組織	11,000	11,000	11,000
B2	インテル® vPro®プラットフォームを使用しないデバイス 1台あたりのデバイス管理関連サポートにおけるインシデントの年間件数	アンケート調査	1.7	1.7	1.7
B3	インテル® vPro®プラットフォームで回避されたデバイス管理関連のサポートチケットの割合	アンケート調査とインタビュー	40%	40%	40%
B4	インテル® vPro®プラットフォームで回避されたデバイス 1台あたりのデバイス管理関連サポートにおけるインシデントの年間件数	B2*B3	0.7	0.7	0.7
B5	インテル® vPro®で回避されたデバイス管理関連サポートにおけるインシデントの数	B1*B4	7,700	7,700	7,700
B6	デバイス管理サポートに関連する1台あたりの作業時間	インタビュー	1.5	1.5	1.5
B7	インテル® vPro®ベースのデバイスをサポートすることで削減された時間の合計	B5*B6	11,550	11,550	11,550
B8	ヘルプデスク部門のFTE（完全負担）の時給	モデル組織	\$30	\$30	\$30
Bt	ヘルプデスクのサポートチケットの減少	B7*B8	\$346,500	\$346,500	\$346,500
	リスク調整	↓10%			
Btr	ヘルプデスクのサポートチケットの減少（リスク調整後）		\$311,850	\$311,850	\$311,850
3年間の合計: 935,550 ドル			3年間の現在価値: 775,525 ドル		

現場でのサポートの必要性の低減

エビデンスとデータ。インタビュー対象者およびアンケート回答者の組織は、エンドポイントの標準としてインテル® vPro®に投資した後、ハードウェアの問題に関連する現場サポート訪問の回数を一貫して減らしており、ほとんどの場合、これらの訪問を完全にゼロにしています。

- 社内分析の結果、ある航空会社では、エンドポイントの標準としてインテル® vPro®を使用することで、カスタマーサービスキオスク端末でのハードウェアの問題を解決するためにIT部門が現場訪問することをほぼ回避できることが判明しました。ハードウェアの問題はリモートで解決できるようになり、インテル® vPro®ベースのハードウェアでは発生する可能性も低くなったため、こうした出張はなくなりました。これにより、毎年約4,000回の出張がなくなり、人件費だけで推定100万ドルのコスト削減が実現しました。同社の上級システムエンジニアは、「率直に言って、当社にとっての最大のメリットは、ハングアップしたマシンをリモートで再起動できることです。」と述べました。
- また、ある航空会社は毎年エンドポイントデバイスの約2%について、ハードウェアの問題を減らすことができました。1回の問題に150ドルから200ドルかかるので、これはその航空会社にとって毎年165,000ドルから220,000ドルの追加に相当します。
- ある教育機関では、エンドポイントのWindowsデバイスのわずか50%をインテル® vPro®ハードウェアに移行しただけで、IT関連の現場訪問全体が23%減少したことが判明しました。同社の最高情報責任者は、残りの50%のWindowsデバイスがインテル® vPro®ハードウェアに更新されるため、この数は今後2年間でさらに減少すると予想しています。
- ある政府機関では、インテル® vPro®を導入した直後にパッチの成功率が50%から90%に向上したため、IT関連の現地訪問の大部分が不要になったことが判明しました。

「...平均的なITサポート担当者は、月に何回の出張を回避することができましたか。また、一般的な往復の出張では、何マイル移動しましたか？」

インテル® vPro®の導入により、ITサポート担当者1人あたりが1か月間に回避した移動用トラックの平均台数またはITサポートの出張回数

出張 29.7 回

トラック移動またはITサポートを目的とした出張の一般的な平均往復距離

261 マイル

ベース: グローバル IT 企業における意思決定者 38 人とインテル® vPro®を利用する顧客が、トラックでの移動や IT サポートの出張を削減できたと回答
出典: インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2023 年 8 月。

- エンドポイントの標準としてインテル® vPro®を使用している組織のアンケート回答者のうち、85%が効率的なリモートワークとハイブリッドワークが可能になり、80%が現地訪問の回数が減少したと回答しました。¹²

モデル化と想定。 Forrester は、インタビューと調査データを活用して、モデル組織の財務的影響をモデル化し、以下のように想定しています。

- このモデル組織は、エンドポイントの標準として11,000台のデバイスを維持しており、そのうち10,000台は10,000人の従業員向けのエンドポイントのノートPCとデスクトップPCです。さらに、1,000台のリモート対応のキオスク端末がインテル® vPro®とともに導入され、顧客が使用しています。
- IT担当者は、チームが管理するエンドポイントデバイスの10%について、毎年1回現場訪問を行う必要があります。この数字は、従業員用エンドポイントデバイスよりも現場サポートを必要とする頻度が高い可能性のあるリモート対応のキオスク端末を考慮したものです。
- IT担当者は、インテル・アクティブ・マネジメント・テクノロジー（インテル AMT）などのインテル® vPro®ツールを活用して、従来は現場訪問が必要だったエンドポイントの問題の90%をリモートで解決できます。

- 回避されたすべての現場訪問のうち、80%は車での移動であり、残りの20%は飛行機での移動でした。往復あたりの加重平均コストは、チケット、燃料、維持費で82ドルです。
- それぞれの現場訪問には、1人のIT担当者が8時間の移動を必要とします。IT担当者はその日をより価値の高いタスクに完全に割り当てることができるため、この時間は完全に取り戻せます。
- IT担当者の平均的な給与は、完全負担給与で1時間あたり50ドルです。
- 組織は、リモートで問題が発生した場合に、追加のエンドポイントスペアに投資して夜間発送するなど、現場訪問を削減するために複数の方法を使用する可能性があります。現場訪問の回数を減らす方法が増えることで、インテル® vPro®が現場訪問を減少させるメリットは減ると考えられます。
- 現場訪問の交通費と人件費は組織によって異なり、これらの訪問を削減するメリットも異なります。分散した拠点でより広範なグローバル業務を行っている組織は、オフィスが比較的近くて交通費が安い組織よりも、現場訪問を減らすことで大きなメリットが得られる可能性があります。

リスク: Forrester は、これらの結果が必ずしもすべての体験を表している訳ではない可能性があり、その影響はいくつかの要因によって異なることを認識しています。

結果. これらのリスクを反映させるため、Forrester はこの利益を15%下方調整し、調整された3年間の総額のPVをおよそ100万ドルとしました。

現場でのサポートの必要性の低減

参照コード	指標	ソース	1年目	2年目	3年目
C1	インテル® vPro®ベースのデバイス数	インタビュー	11,000	11,000	11,000
C2	毎年、ハードウェアの問題に関連した現場サポートが必要なインテル® vPro®ベース以外のデバイスの割合	インタビューおよびアンケート調査	10%	10%	10%
C3	インテル® vPro®以外のデバイスの場合、毎年必要となる現場でのサポート	C1*C2	1,100	1,100	1,100
C4	インテル® vPro®ベースのデバイスで回避されたハードウェアの問題に関連する現場サポート出張の割合	インタビューおよびアンケート調査	90%	90%	90%
C5	毎年必要となる現地サポート出張の回避	C3*C4	990	990	990
C6	エスカレーションされた現場のインシデント解決に要するリソース時間	インタビュー	8	8	8
C7	IT部門のFTE（完全負担）の時給	モデル組織	\$50	\$50	\$50
C8	出張ごとの追加コスト	インタビュー	\$82	\$82	\$82
Ct	現場サポートの必要性の低減	C5*((C6*C7)+C8)	\$477,180	\$477,180	\$477,180
	リスク調整	↓15%			
Ctr	現場サポートの必要性の低減（リスク調整後）		\$405,603	\$405,603	\$405,603

3年間の合計: 1,216,809 ドル

3年間の現在価値: 1,008,675 ドル

ハードウェアの安定性を向上することによる従業員の効率向上

エビデンスとデータ。 サポートチケットや現場訪問の回数が減ることで、ITグループの時間が削減されるだけでなく、エンドユーザーの作業効率が向上し、作業エクスペリエンスが向上します。エンドポイントの標準としてインテル® vPro®を利用している組織は、従業員の効率性の向上という形で、この追加のビジネス価値を得ることができました。

- インタビュー対象者は、サポートチケットの削減と解決までの時間の短縮によってIT効率が向上することを確認し、従業員の効率も向上し、ハードウェアの問題が減少して時間を削減できたと述べています。
- ある教育機関では、従業員がノートPCまたはデスクトップPCで重大なハードウェア問題が発生するたびに、1時間以上の時間を削減できたと推定しています。これは、インテル® vPro®の技術を使用すれば、問題を迅速かつリモートで解決できるためです。
- また、インテル EMA などのインテル® vPro®管理ツールへのアクセスをヘルプデスクの従業員に提供することで、従業員は問題が解決される

「従業員の時間は極めて重要です。彼らのデバイスが故障した場合、修理するのに1~2時間かかるのは効率的とは言えません。目標は、すばやく復活させることです。vProのおかげで、これをすべてリモートで行えるようになりました。」

教育関連、最高情報責任者(CIO)

まで長く待つ必要がなくなり、より早く職場に戻ることができるようになりました。

- アンケート回答者の91%が、インテル® vPro®を標準として使用することで「従業員のパフォーマンスと生産性が向上した」と回答しています。さらに、86%がインテル® vPro®によって協力体制が改善され、ダウンタイムが短縮されたと回答しました。¹³

モデル化と想定。 Forrester は、インタビューとアンケート調査データを活用して、モデル組織の財務的影響をモデル化し、以下のように想定しています。

- このモデル組織には10,000人の従業員がおり、それぞれがインテル® vPro®ベースのエンドポイントデバイスを所有しています。
- インテル® vPro®をエンドポイントの標準として導入する前は、月ごとに平均して従業員の約4%が重要なハードウェア関連の問題に悩まされ、その解決には1.5時間かかっていました。
- このモデル組織がインテル® vPro®ベースのデバイスをエンドポイントの標準として導入した後、重要なハードウェア関連の問題に悩まされる従業員数は四半期ベースに減少し、月ごとに1%にまで低下しました。
- 同様に、インテル® vPro®ベースのデバイスを使用することで、ハードウェア関連の問題は83%速く解決されます。最も一般的な問題はより少ない労力で特定、修正できるためです。

「(インテル® vPro®を使用することで) PCのダウンタイムが発生するたびに、従業員1人あたり1時間半の時間を節約できます。」

教育関連、最高情報責任者(CIO)

- 従業員の平均的な給与は、完全負担給与で1時間あたり40ドルです。
- 向上したハードウェアの安定性によって削減された時間の半分は、より高い価値のある作業に再割り当てされます。

リスク: Forrester は、これらの結果が必ずしもすべての体験を表している訳ではない可能性があり、その影響はいくつかの要因によって異なることを認識しています。

- 従業員の効率性は、エンドポイントのハードウェアとソフトウェアの多くの面で影響を受けます。インテル® vPro®で緩和される範囲を超えた問題に苦しむ従業員は、他の問題も解決されるまで同じ効率向上を実感できないかもしれません。
- 従業員が節約できた時間を再投資しない場合、組織に同じ価値を提供することはできません。再投資される時間の量、つまりインテル® vPro®の利益は、従業員のタイプ、作業構造、企業文化、多くの他の要因によって異なります。

結果。 これらのリスクを反映させるため、Forresterはこの利益を15%下方修正し、リスク調整後の3年間の現在価値(PV)を190,000ドルとしました。

「当社が削減した時間の多くは、従業員の時間です。夜間に彼らの機器をオフにしているにもかかわらず、アップデートを適用することができます。日中、ユーザーはオペレーティングシステムやアプリケーション、アーキテクチャ、セキュリティなどのアップデートを待つことなく、すべての時間を仕事に費やすことができます。」

金融サービス部門、ハードウェア
ディレクター

ハードウェアの安定性を向上することによる従業員の効率向上

参照コード	指標	ソース	1年目	2年目	3年目
D1	インテル® vPro®ベースのデバイスを使用する従業員	モデル組織	10,000	10,000	10,000
D2	インテル® vPro®ベース以外のデバイスを使用した場合に、PCまたはパフォーマンスの問題に大きな影響を受けた従業員の割合（月次）	インタビューおよびアンケート調査	4%	4%	4%
D3	インテル® vPro®ベース以外のデバイスの平均解決時間（時間）	アンケート調査	1.5	1.5	1.5
D4	インテル® vPro®ベース以外のデバイスでエスカレーションした問題に対処するために費やした時間	$D1 * D2 * D3 * 12$ か月	7,200	7,200	7,200
D5	インテル® vPro®による PC またはパフォーマンスの問題により大きな影響を受ける従業員の削減	アンケート調査とインタビュー	75%	75%	75%
D6	インテル® vPro®ベースのデバイスの解決時間の短縮	インタビュー	83%	83%	83%
D7	インテル® vPro®のリモート管理機能による従業員の作業時間の削減	$D4 * D5 * D6$	4,482	4,482	4,482
D8	従業員の平均給与（完全負担）	モデル組織	\$40	\$40	\$40
D9	再取得時間	モデル組織	50%	50%	50%
Dt	ハードウェアの安定性の向上による従業員の効率性の向上	$D7 * D8 * D9$	\$89,640	\$89,640	\$89,640
	リスク調整	↓15%			
Dtr	ハードウェアの安定性の向上による従業員の効率の向上（リスク調整後）		\$76,194	\$76,194	\$76,194
3年間の合計: 228,582 ドル			3年間の現在価値: 189,483 ドル		

削減された電力コスト

エビデンスとデータ。 インテル® vPro®をエンドポイントの標準として使用する前後のエネルギー使用量を追跡したインタビュー対象組織では、デバイス単位とオフィス全体の電力消費量を削減できたことが判明しました。

- ある教育機関が、インテル® vPro®への移行前後のエネルギー使用量を現場別とエンドポイントデバイス別で追跡したところ、すべてのインテル® vPro®ベースのデバイスを使用している現場では、インテル® vPro®ベース以外のデバイスを使用している現場よりも平均 15%少ない電力を使用していました。この減少はデバイスレベルの解析でも観察されました。
- ある金融機関では、インテル EMA などのインテル® vPro®の技術を使用して、勤務時間外に不要なエンドポイントデバイスを自動的にシャットダウンして起動することで、エネルギー使用量を削減できました。

外のデバイスよりも 15%少ない電力を使用し、年間 128 キロワット時(kWh)です。

- 1kWh のコストは 0.15 ドルです。
- この分析では、リモート対応のキオスク端末の電力消費量は、エンドポイントデバイスとは異なる可能性があるため、インテル® vPro®プラットフォームを利用しているかどうかに関係なく、控えめに想定しています。

インテル® vPro®エンドポイントデバイスによる省エネ

15%



モデル化と想定。 Forrester は、インタビューとアンケート調査データを活用して、モデル組織の財務的影響をモデル化し、以下のように想定しています。

- このモデル組織には 10,000 人の従業員がおり、それぞれがインテル® vPro®ベースのデバイスを所有しています。
- インテル® vPro®がベースではない従業員のエンドポイントデバイスは、年間で 150 キロワット時(kWh)を使用します。
- インテル® vPro®をベースとした従業員のエンドポイントデバイスは、インテル® vPro®ベース以

「私たちは常に持続可能性チームを有しており、(インテル) vPro を使用して行った最初の取り組みの 1 つは、一日の終わりに使用していない機器の電源をオフにすることでした。その後、ユーザーがワークステーションに戻る 15~20 分前に機器の電源をオンに戻します。」

金融サービス部門、ハードウェアディレクター

リスク: Forrester は、これらの結果が必ずしもすべての体験を表している訳ではない可能性があり、その影響はいくつかの要因によって異なることを認識しています。

- すべてのインタビュー対象者がインテル® vPro®環境による大幅な省電力を期待していたわけではありませんが、インタビュー対象者は環境の電力消費量やエンドポイントの標準としてインテル® vPro®に移行した場合の違いを測定していませんでした。
- 省エネルギーは、組織の種類、処理ニーズ、業界、コンピューターモデル、地域の電力コストによって異なる可能性があります。

- エンドポイントのエネルギー使用量は、インテル® vPro®に関連するハードウェアのみで決まるわけではありません。読者は、インテル® vPro®が維持または組み込まれる可能性のある場所を考慮しながら、独自の環境でのすべてのハードウェアとエネルギー使用を注意深く評価すべきです。

結果。これらのリスクを反映させるため、Forresterはこの利益を15%下方修正し、リスク調整後の3年間の現在価値(PV)を70,000ドルとしました。

「当社は、(インテル) vPro による電力消費の改善をさまざまなオフィスで見てきました。基本的に、より優れた電力管理機能を備えています。」

教育関連、最高情報責任者(CIO)

削減された電力コスト

参照コード	指標	ソース	1年目	2年目	3年目
E1	インテル® vPro®ベースのデバイスを使用する従業員数	モデル組織	10,000	10,000	10,000
E2	インテル® vPro®ベース以外の従業員用デバイス1台あたりの年間使用電力量(kWh)	モデル組織	150	150	150
E3	インテル® vPro®ベースの従業員用デバイス1台あたりで削減された年間電力使用量	インタビュー	15%	15%	15%
E4	インテル® vPro®ベースの従業員用デバイス1台あたりの年間使用電力量(kWh)	$E2 * (1 - E3)$	128	128	128
E5	インテル® vPro®ベースのデバイスで削減された kWh の合計	$E1 * (E2 - E4)$	220,000	220,000	220,000
E6	kWh あたりのコスト	モデル組織	\$0.15	\$0.15	\$0.15
Et	削減された電力コスト	$E5 * E6$	\$33,000	\$33,000	\$33,000
	リスク調整	↓15%			
Etr	電力コストの削減額 (リスク調整後)		\$28,050	\$28,050	\$28,050
3年間の合計: 84,150 ドル			3年間の現在価値: 69,756 ドル		

ハードウェア対応のセキュリティ

エビデンスとデータ。 5,000人以上の従業員がおり、主にインテル® vPro®ベースのエンドポイントデバイスを使用している組織の調査回答者は、インテル以外のエンドポイントデバイスと比較して、年間平均で侵害が少ないと報告しています。また、重大な侵害からの復旧に時間がかからなくなり、総コストと従業員への影響が軽減されたことも報告されています。

- インテル® vPro®以外を利用している組織では、年平均 3.9 件の重大な侵害が報告されているのに対し、インテル® vPro®を利用している組織では 2.8 件の重大な侵害が報告されています。¹⁴
- 他のセキュリティ対策など、2つのグループ間のその他の違いを考慮した後、回帰分析では、エンドポイントデバイスのプロセッサの選択と、そのハードウェアによって可能になった改善が、重大な侵害の件数の差の総差異の約 10% を説明することが示されました。¹⁵
- また、インテルを利用している組織では、外部からの攻撃、内部でのインシデント、攻撃、サードパーティのサプライヤーが関与する事件、そして資産の紛失や盗難による情報漏えいが発生する可能性が低くなりました。¹⁶
- 主にインテル® vPro®環境を使用している組織は、インテル以外の環境を使用している組織よりも 15%速く重大な侵害から回復できました。¹⁷
- 2つのグループ間のその他の違いを考慮すると、重大な侵害の件数を減らし、重大な侵害から迅速に回復するという加重メリットの 15%は、インテル® vPro®ハードウェア対応のセキュリティで説明できます。
- Forrester Research の調査によると、重大なセキュリティ侵害の影響を受けた従業員は、平均 3.6 時間の生産性を失うことが判明しました。¹⁸
- エンドポイントの標準としてインテル® vPro®を使用した調査回答者のうち、84%がセキュリティインシデントや侵害が減少し、個人データが盗まれるリスクが減少したと回答しました。加

「(インテル) vPro には長年にわたって多くの機能が追加されてきました。例えば、PC がウイルスに感染している場合、PC の起動中にウイルスを調査できるようになりました。」

政府機関、フロントエンドサポートマネージャー

えて、83%がハードウェア対応セキュリティによってステークホルダーの信頼が向上したと回答しています。¹⁹

モデル化と想定。 Forrester は、インタビューと調査データを活用して、モデル組織の財務的影響をモデル化し、以下のように想定しています。

- このモデル組織は、エンドポイントデバイスのセキュリティ侵害を解決するための非人件費に毎年 300 万ドル強を費やしています。さらに、セキュリティ侵害を解決するための人件費として約 150 万ドルが費やされています。
- エンドポイントの標準としてインテル® vPro®を採用した後、他のセキュリティの改善に加えて、モデル組織が経験するセキュリティ侵害の件数は 23%減少しました。この改善のうち 10%は、インテル® vPro®によるハードウェア対応のセキュリティと、インテル® vPro®によるセキュリティの向上に直接関係しています。
- 同様に、セキュリティ侵害を解決する時間も 35%短縮されます。これは、解決が必要なセキュリティ侵害が 23%減少したことに加え、残りのセキュリティ侵害の解決に要する時間が 15%短縮されたことが一因です。この 35%の改善のうち、相対的に 12%の改善は、エンドポイントの標準としてインテル® vPro®に投資しているモデル組織によって直接実現されています。

- モデル組織の 10,000 人の従業員のうち、2,000 人が毎年セキュリティ侵害の影響を受けていた可能性があります。インテル® vPro®によって可能になったセキュリティ侵害の減少と迅速な解決のため、影響はありません。
- 従業員の平均的な給与は、完全負担給与で 1 時間あたり 40 ドルです。
- 向上したハードウェアの安定性によって削減された時間の半分は、より価値の高い作業に再割り当てされます。

リスク: Forrester は、これらの結果が必ずしもすべての体験を表している訳ではない可能性があり、その影響はいくつかの要因によって異なることを認識しています。

- この分析では、セキュリティ侵害の件数とその解決にかかる時間のばらつきの多くは、ハードウェア対応のセキュリティ以外の要因によるものであることが判明しました。インテル® vPro® は、これらの指標の減少の統計的に有意な部分と相関していますが、読者は自分のセキュリティ対策とエンドポイント環境を慎重に検討する必要があります。
- この分析では、エンドポイントの標準としてインテル® vPro®を使用している組織と、他のエンドポイント環境を使用している組織の両方で、セキュリティ侵害の件数とそのコストに大きな違いがあることが判明しました。この分析で使用されているセキュリティ侵害コストの仮定に完全に依存するのではなく、読者は独自のコストを組み込み、潜在的な利益を再計算する必要があります。

結果。 これらのリスクを反映させるため、Forrester はこの利益を 10% 下方修正し、リスク調整後の 3 年間の現在価値(PV)を 339,000 ドル弱としました。

ハードウェア対応のセキュリティ。					
参照コード	指標	ソース	1年目	2年目	3年目
F1	インテル® vPro®ベース以外のデバイスを使用する組織の重大な侵害による年間コスト（人件費を除く）	モデル組織	\$3,066,008	\$3,066,008	\$3,066,008
F2	インテル® vPro®ベースのデバイスを使用している組織の重大な侵害件数の削減	アンケート調査	23%	23%	23%
F3	インテル® vPro®に起因する重大な侵害件数の変動	アンケート調査	10%	10%	10%
F4	小計: インテル® vPro®がセキュリティ侵害の回避コストに与える影響（人件費を除く）	$F1 \times F2 \times F3$	\$70,518	\$70,518	\$70,518
F5	インテル® vPro®以外のエンドポイントデバイスを使用する組織の重大な侵害による年間の人件費	モデル組織	\$1,463,400	\$1,463,400	\$1,463,400
F6	インテル® vPro®のエンドポイントデバイスを使用している企業における侵害調査の労力の削減	アンケート調査	35%	35%	35%
F7	インテル® vPro®に起因する侵害を調査するための労力の変動	アンケート調査	12%	12%	12%
F8	小計: インテル® vPro®によるセキュリティ侵害回避のための人件費への影響	$F5 \times F6 \times F7$	\$61,463	\$61,463	\$61,463
F9	重大な情報漏えいにより直接影響を受ける年間の従業員数	モデル組織	2,000	2,000	2,000
F10	従業員1人あたりの削減時間	アンケート調査	4.0	4.0	4.0
F11	従業員の平均給与（完全負担）	モデル組織	\$40	\$40	\$40
F12	インテル® vPro®に起因する重大な侵害により影響を受けた従業員時間の変動	アンケート調査	12%	12%	12%
F13	再取得時間	モデル組織	50%	50%	50%
F14	小計: セキュリティ侵害を回避したインテル® vPro®が従業員の勤務時間に与える影響	$F9 \times F10 \times F11 \times F12 \times F13$	\$19,200	\$19,200	\$19,200
Ft	ハードウェア対応のセキュリティ	$F4 + F8 + F14$	\$151,181	\$151,181	\$151,181
	リスク調整	↓10%			
Ftr	ハードウェア対応のセキュリティ（リスク調整後）		\$136,063	\$136,063	\$136,063
3年間の合計: 408,189 ドル			3年間の現在価値: 338,368 ドル		

サードパーティ ソフトウェアおよびサービスコストの削減

エビデンスとデータ。 インテル® vPro®は、多くの技術の追加と機能へのアクセスを提供し、IT企業の意思決定者が既存のサードパーティのライセンスコストを削減または統合できるようにしました。

- ある航空会社は、インテル EMA などのインテル® vPro®に組み込まれている機能によってソフトウェアが冗長化されたため、テレメトリーソフトウェアのための従業員 1 人あたり 3 ドルのコストを回避できました。これにより、その航空会社は年間約 150,000 ドルを削減できました。航空会社のシニアシステムエンジニアは、「インテル® vPro®は、他のシステムと同じかそれ以上の性能を発揮し、他のツールの償却を可能にしてくれます。」と述べています。
- ある金融サービス企業は、インテル® vPro®を導入したことで、サードパーティのリモート管理ツールが不要になり、年間 150,000 ドルから 200,000 ドルのコスト削減を実現しました。
- アンケート調査の回答者のうち、インテル® vPro®をエンドポイントの標準として使用している回答者の 79%は、インテル® vPro®によってサードパーティのソフトウェアやサービスを削減できたと回答しています。²⁰

モデル化と想定。 Forrester は、インタビューとアンケート調査データを活用して、モデル組織の財務的影響をモデル化し、以下のように想定しています。

- モデル組織は、エンドポイントの標準として使用する場合、インテル® vPro®に含まれる機能を最大限に活用することで、一部のサードパーティ製ツールやサービスへの依存を減らすことができます。
- サードパーティのソフトウェアとサービスの削減額の合計は、モデル組織で毎年 100,000 ドルです。

リスク: Forrester は、これらの結果が必ずしもすべての体験を表している訳ではない可能性があり、そ

「インテルは vPro に無料で機能を追加しましたが、それに対して以前は別のプロバイダーに年間で 100,000 ドル支払っていました。」

金融サービス部門、IT アーキテクチャエグゼクティブアドバイザー

の影響はいくつかの要因によって異なることを認識しています。

- インタビュー対象者およびアンケート調査の回答者は、サードパーティのソフトウェアとサービスをインテル® vPro®の機能に置き換えることで、さまざまな面でコストを削減できたと報告しています。
- 読者は、EMA、インテル・アクティブ・マネジメント・テクノロジー（インテル AMT）、インテル SIPP などのインテル® vPro®の機能と特徴を慎重に評価して、現在のソリューションセットの潜在的な冗長性を特定する必要があります。

結果。 これらのリスクを反映させるため、Forrester はこの利益を 10%下方修正し、リスク調整後の 3 年間の PV 総額を 224,000 ドルとしました。

サードパーティ ソフトウェアおよびサービスコストの削減

参照コード	指標	ソース	1年目	2年目	3年目
G1	インテル® vPro®によるサードパーティソフトウェアおよびサービスコストの削減	アンケート調査とインタビュー	\$100,000	\$100,000	\$100,000
Gt	サードパーティ ソフトウェアおよびサービスコストの削減	G1	\$100,000	\$100,000	\$100,000
	リスク調整	↓10%			
Gtr	サードパーティ ソフトウェアおよびサービスコストの削減 (リスク調整後)		\$90,000	\$90,000	\$90,000
3年間の合計: 270,000 ドル			3年間の現在価値: 223,817 ドル		

財務以外の定量的な利益: 温室効果ガス排出量の削減エビデンスとデータ。 インテル® vPro®は、すでに検討されている経済的なメリットに加えて、エネルギー使用量の削減と現場訪問の削減により、温室効果ガスの排出量を削減できます。

- **現場サポートの必要性の削減**によるメリットに関するセクションで説明したように、ある航空会社では、インテル® vPro®のリモート管理機能を使用することで、IT担当者の出張を毎年4,000回削減できました。
- また、**現場サポートの必要性の削減**によるメリットに関するセクションでは、ある政府機関がインテル® vPro®を使用してパッチ適用率を50%から90%に向上させることで、現場訪問の回数を大幅に減らすことができたことを取り上げています。同様に、ある教育機関ではインテル® vPro®ベースのデバイスを50%導入しただけで、現場訪問を23%削減できました。この数は今後も減少し続けると予想されています。
- **電力コストの削減**に関するメリットで説明したように、ある教育機関では、インテル® vPro®ベースのデバイスはインテル® vPro®ベース以外のデバイスよりもエネルギー消費量が15%少ないことが判明しました。

- また、**電力コストの削減**のセクションで説明したように、インテル® vPro®を使用して業務時間外に一部のエンドポイントデバイスを自動的にシャットダウンすることで、エネルギー使用量をさらに削減した金融機関もあります。

モデル化と想定。 Forrester は、インタビューとアンケート調査データを活用して、モデル組織の炭素排出をモデル化し、以下のように想定しています。

- モデル組織は、**現場サポートの必要性の削減**に関連するメリットで計算されるように、エンドポイントデバイスのエネルギー使用量を年間225,000 kWh 削減しました。
- モデル組織は、**現場サポートの必要性の削減**に関連するメリットで計算されるように、現場訪問の990回を避けることができます。このうち80%は、車両で往復40マイル移動した場合です。残りの20%は、航空機で往復1,000マイル移動した場合です。
- この分析では、米国環境保護庁(EPA)の調査を使用して、インテル® vPro®が可能にするエネルギーおよび車両移動の削減に関連する同等の温室効果ガス削減量を算出しています。²¹
- この分析では、米国運輸省の調査とBlueSkyModelを使用して、インテル® vPro®による航空機移動の削減に伴う同等の温室効果ガス排出削減量を算出しています。²²
- インタビュー対象者やアンケート調査の回答者は、インテル® vPro®が組織の従業員のリモートワークやハイブリッドモデルでの作業を可能にするのに役立ったと述べている一方で、インテル® vPro®以外にもいくつかの取り組みや技術が必要であることも示しています。控えめに言って、この分析にはリモートワークに関連する温室効果ガスの削減は含まれていません。ただし、これはインテル® vPro®の技術によって一部実現されています。

リスク: Forrester は、これらの結果が必ずしもすべての体験を表している訳ではない可能性があり、そ

「(インテル® vPro®) を使って、午後に機器の電源をオフにし、午前中に再びオンにするという調査を行ったところ、電力消費時間が大幅に短縮されたことが判明しました。」

金融サービス部門、ハードウェア
ディレクター

の影響はいくつかの要因によって異なることを認識しています。

- すべてのインタビュー対象者がインテル® vPro® 環境による大幅な省電力を期待していたわけではありませんが、他の対象者は環境の電力消費量やエンドポイントの標準としてインテル® vPro®に移行した場合の違いを測定していませんでした。
- エンドポイントのエネルギー使用量は、インテル® vPro®に関連するハードウェアのみで決まるわけではありません。読者は、インテル® vPro®が維持または組み込まれる可能性のある場所を考慮しながら、独自の環境でのすべてのハードウェアとエネルギー使用を注意深く評価すべきです。
- 組織は、リモートで問題が発生した場合に、追加のエンドポイントスペアに投資して夜間発送するなど、現場訪問を削減するために複数の方法を使用する可能性があります。現場訪問の回数を減らすために使用される方法が増えると、エンドポイントの標準としてのインテル® vPro®のメリットが減少する可能性があります。

結果。これらのリスクを考慮して、Forresterはこの利益を20%下方修正し、リスク調整後の3年間の二酸化炭素排出量の合計368,000 kgを回避しました。

財務以外の定量的な利益: 温室効果ガス排出量の削減

参照コード	指標	ソース	1年目	2年目	3年目
X1	インテル® vPro®で削減された kWh の合計	E5	225,000	225,000	225,000
X2	1kWh の削減で回避できる炭素量(kg)	US EPA	0.43	0.43	0.43
X3	小計: インテル® vPro®ベースの従業員用デバイスのエネルギー使用量削減による炭素削減量(kg)	X1*X2	96,750	96,750	96,750
X4	毎年必要となる現地サポート出張の回避	C5	990	990	990
X5	現地サポートのための出張のうち、航空機を利用した可能性のある出張の割合	モデル組織	20%	20%	20%
X6	年間の回避フライト数	X4*X5	198	198	198
X7	平均飛行時間 (往復飛行マイル)	モデル組織	1,000	1,000	1,000
X8	1マイルあたりのフライトごとの回避された炭素排出量(kg)	米国運輸省、BlueSkyModel	0.24	0.24	0.24
X9	小計: フライトの減少による炭素削減量の合計(kg)	X6*X7*X8	47,520	47,520	47,520
X10	現地サポートのための出張のうち、車を運転した可能性のある出張の割合	モデル組織	80%	80%	80%
X11	年間の走行距離の削減	X4*X10	792	792	792
X12	出張による平均距離 (往復走行マイル)	モデル組織	40	40	40
X13	燃費 (マイル/無鉛ガソリン・ガロン)	モデル組織	25	25	25
X14	ガソリン総消費量 (ガロン)	X11*X12/X13	1,267	1,267	1,267
X15	無鉛ガソリン 1 ガロン当たりの炭素排出量(kg)	US EPA	8.9	8.9	8.9
X16	小計: 車による移動の減少による炭素削減量の合計(kg)	X11*X12/X13*X14	11,276	11,276	11,276
Xt	温室効果ガス放出の低減(kg)	X3+X9+X15	155,546	155,546	155,546
	リスク調整	↓20%			
Xtr	温室効果ガス放出の低減(kg) (リスク調整後)		124,437	124,437	124,437
3年間の総炭素排出量: 368,151 kg					

この潜在的なメリットは、エンドポイントデバイスとワークロードの数と種類、現場サポートに必要な出張の回数、エネルギー源のプロファイルなどに依存します。こちらの計算はあくまでも概算であり、正式な排出量分析に使用されるべきではありません。

追加の非定量的利益

インタビューおよびアンケート回答者が言及したものの、定量化が不可能であったその他の利点は以下の通りです。

- 中核事業の収益の保護。** 顧客向けリモート対応のキオスク端末を使用しているインタビュー対象者によると、リモート操作可能なデバイスの標準としてインテル® vPro®を使用することで、組織の業務管理が向上したことが判明しました。これは、従業員がデバイスにアクセスするために特別な許可を必要とする規制された業界で特に当てはまります。例えば、ある航空会社は、チェックイン対応のキオスク端末を維持することで、毎日約1便の欠航や大幅な遅延を回避することができました。EMEAの金融サービス組織は、インテル® vPro®でリモート管理を有効にすることで、数時間から数日前にATMを修正することができます。
- 従業員体験の向上。** インテル® vPro®ハードウェアと技術のパフォーマンスおよび安定性の向上により、一般的な作業環境が改善されました。従業員は作業の中断が少なくなり、問題が発生しても迅速に解決できるようになり、全体的なエクスペリエンスが向上しました。調査対象となるIT企業の意思決定者の91%が、エンドポイントの標準としてインテル® vPro®を選択することで、従業員のエクスペリエンスが向上したと回答しています。²³

- 長寿命のデバイスを提供。** インテル® vPro®ベースのデバイスは、インテル以外のエンドポイントデバイスよりも長持ちするため、従業員に悪影響を与えることなく更新サイクルを延長できると回答したインタビュー対象者もいました。
- デバイスのリセールバリューの向上。** 76%の回答者が、インテル® vPro®はインテル® vPro®ベース以外のデバイスよりも高いリセールバリューを提供すると回答しました。²⁴ 組織は毎年デバイスの一部を更新するため、インテル® vPro®ベースのデバイスの再販により、より多くのキャッシュフローを得ることができます。
- より効率的なパートナーシップを実現。** インテル® vPro®に含まれる多くの技術により、エコシステムパートナーは従業員のエンドポイントデバイスとより簡単に連携できるようになりました。例えば、アンケート回答者の85%は、インテル® vPro®を組織におけるエンドポイントの標準として維持することで、マネージドサービスプロバイダーのアクセスが容易になると述べています。²⁵
- 顧客の維持。** 主にインテル® vPro®ベースのエンドポイントデバイスを使用しているビジネスおよびITチームのリーダーは、主にインテルベース以外のエンドポイントデバイスを使用している組織のリーダーと比較して、顧客を失う可能性が低いと報告しています。過去1年間の重大な侵害の影響について尋ねたところ、主にインテル® vPro®ベースのエンドポイントを使用している組織のわずか29%が顧客の損失を報告したのに対し、主にインテルベース以外のエンドポイントを使用している組織では40%でした。²⁶
- 生態系の保護。** 顧客の信頼を守るだけでなく、主にインテル® vPro®ベースのデバイスを使用している組織のリーダーは、エコシステムパートナーからの信頼を失ったと回答する割合が、主にインテルベース以外のデバイスを使用している組織のリーダー(43%)がそのように回答するよりも低い(35%)ものでした。²⁷

「(インテル) vPro に移行してからは、PCの耐用年数が2倍になりました。これを見た瞬間、(インテル) vPro プラットフォームを標準化することは自明の選択でした。」

行政機関、フロントエンド環境責任者

柔軟性

柔軟性の価値は、顧客によって異なります。顧客がインテル® vPro®を導入するシナリオは、以下のように複数存在し、追加の使用やビジネスチャンスを経て実現する場合があります。

- **より広範な技術へのアクセスを提供。** インテル® vPro®により、アンケート回答者である IT 企業の意思決定者の 86%が、自社でより広範な技術のエコシステムを持つことができるようになりました。どのような技術が含まれるかを尋ねたところ、回答者は以下のように答えました。²⁸
 - 87%が「セキュリティ技術」と回答しました。
 - 81%が「（インテル・アクティブ・マネジメント・テクノロジー（インテル AMT）やインテル EMA などのインテル® vPro®の技術以外の）リモート管理技術」と回答しました。
 - 69%が「協業技術」と回答しました。
 - 19%が「テレメトリー技術」と回答しました。

さらに、インタビュー対象組織の中には、インテル® vPro®の技術と API を活用して、独自のリモート管理とテレメトリソフトウェアを構築しているところもありました。これらのインタビュー対象者は、このソフトウェアによって、エンドポイント環境の可視性がさらに向上し、長期的なメリットがもたらされることを期待していました。

ある金融サービス会社の IT アーキテクチャ担当エグゼクティブアドバイザーは、以下のように述べています。「オープンな API 構造があるため、インテルとはうまく連携しており、監視ツールを（インテル）EMA に組み込む準備を進めています。API を介して情報を取得するスクリプトを作成し、一般的な問題を修正する（インテル）EMA のボタンを作成する予定です。これにより、第 1 レベルのサポートは、第 2 レベルの

サポートに移行することなく問題を解決できます。」

「...インテル® vPro®とその技術が利用できない場合、従業員の何パーセントがリモート/ハイブリッドで働くことができますか？インテル® vPro®を使用して、従業員の何パーセントがリモート/ハイブリッドで働くことができますか？」

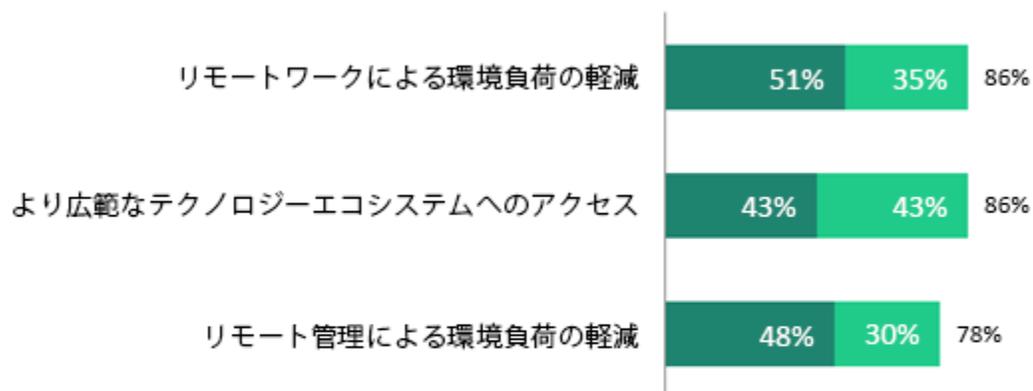


ベース: グローバル IT 企業の意思決定者 52 人とインテル® vPro®を使用している顧客で、リモートワークの導入により環境負荷が軽減されたと回答した顧客
出典: インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2023 年 8 月。

- **ハイブリッドおよびリモートワークの拡大。** インタビュー対象者は、インテル・アクティブ・マネジメント・テクノロジー（インテル AMT）やインテル EMA などのインテル® vPro®の技術を活用することで、ハイブリッドワークのサポートが容易になったと述べています。Forrester Research の調査によると、ハイブリッドモデルの移行は組織に具体的なビジネス価値をもたらし、従業員にとって最も求められる環境の 1 つであることがわかっています。²⁹
- **ハードウェアによるセキュリティの継続的な改善。** インタビュー対象者は、インテル® vPro®がどのようにセキュリティ製品を改善してきたかを説明し、これらの改善によって IT チームは独自のセキュリティポジションを強化できるようになったと述べました。Forrester は、エンドポイント管理とセキュリティ戦略の将来性を、既存技術の組み込みによってどのように実現できるかについて前述しました。³⁰

柔軟性は、特定のプロジェクトの一環として評価することで数値化できます（[付録 A](#) に詳細を記載）。

「インテル® vPro®を標準採用することで、貴社が経験したこれらのメリットについて、どの程度同意しますか、または同意しませんか？」

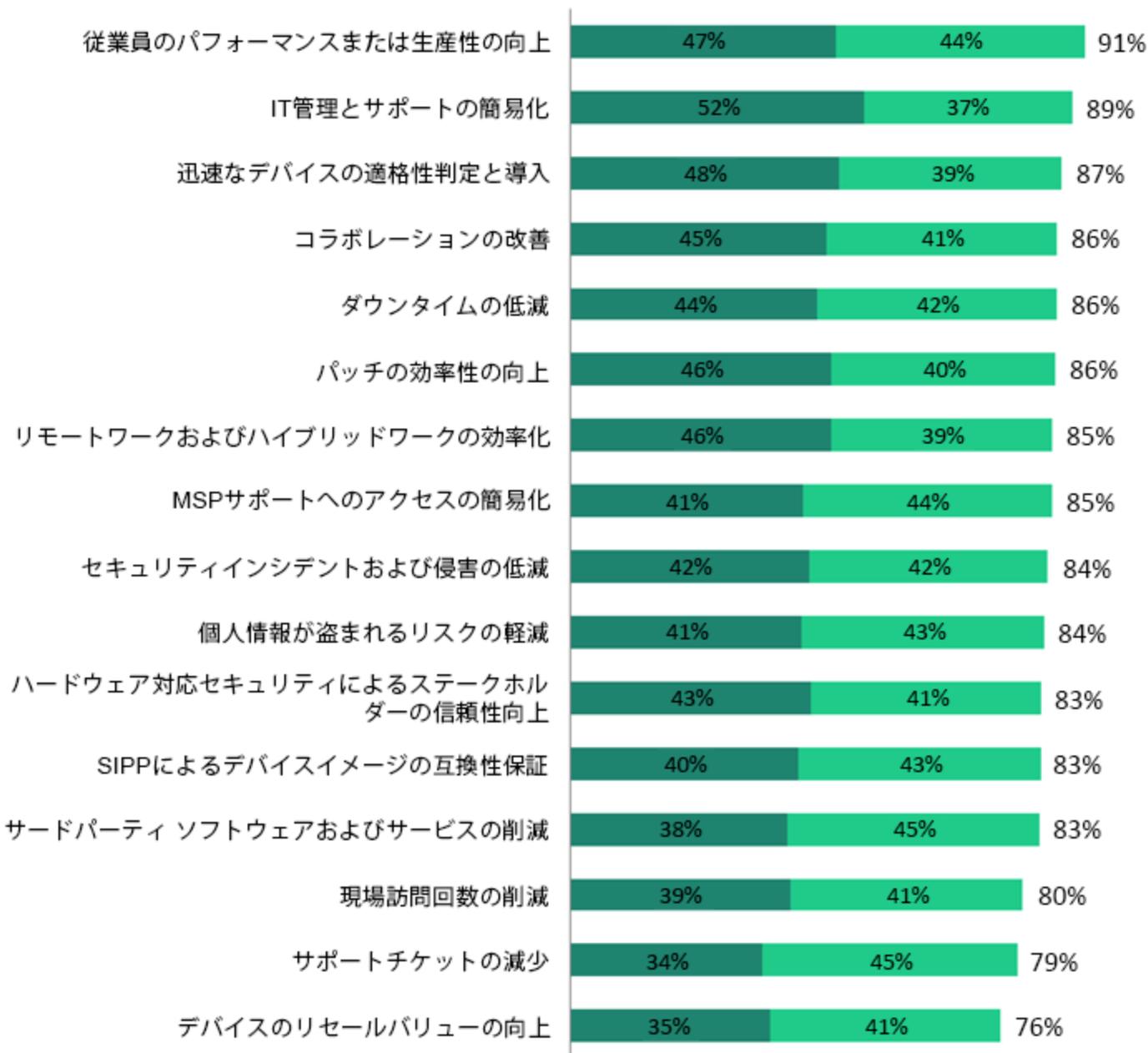


■ 同意する ■ 強く同意する

対象: グローバルIT企業における意思決定者63人とインテル® vPro®の顧客

出典: インテルの委託によるForrester Consulting実施の調査。2023年8月。

「インテル® vPro®を標準採用することで、貴社が経験したこれらのメリットについて、どの程度賛成ですか、または反対ですか？」



■ 強く同意する ■ 同意する

対象: グローバルIT企業における意思決定者500人とインテル® vPro®の顧客

注: 四捨五入のため、パーセンテージの合計は個々の数値を加算したものと一致しない場合があります

出典: インテルの委託によるForrester Consulting実施の調査。2023年7月。

コストの分析

■ 複合型組織に適用される定量的コストデータ

総コスト							
参照コード	コスト	初期	1年目	2年目	3年目	合計	現在価値
Htr	インテル® vPro®ベースのデバイスのハードウェアコストの増加	\$0	\$480,322	\$480,322	\$480,322	\$1,440,965	\$1,194,489
ltr	追加のセキュリティチケットにかかった人件費	\$0	\$7,590	\$7,590	\$7,590	\$7,590	\$18,875
Jtr	IT担当者にインテル® vPro®の技術をトレーニングするための人件費	\$120,750	\$18,975	\$18,975	\$18,975	\$177,675	\$167,938
総コスト（リスク調整後）		\$120,750	\$506,887	\$503,851	\$503,851	\$1,641,410	\$1,381,302

インテル® VPRO®ベースのデバイスのハードウェアコストの増加

エビデンスとデータ。 インテル® vPro®ベースのデバイスは、インテル® vPro®のハードウェアを搭載していない類似モデルと比較して、企業にとってコストが高いことが判明しました。

- インタビュー対象者およびアンケート回答者の組織は、インテル® vPro®ベース以外の類似のノート PC やデスクトップ PC よりも、インテル® vPro®ベースのデバイスに一貫して多くの費用を支払っています。
- インテル® vPro®ベースのデバイスの割増額は、市場や組織の規模によって大きく異なり、デバイスあたり 70 ドルから 250 ドルとなっています。ただし、最も同等のエンドポイントデバイスモデル全体でのインテル® vPro®の割増額は約 125 ドルでした。

モデル化と想定。 Forrester は、インタビューとアンケート調査データを活用して、モデル組織の財務的影響をモデル化し、以下のように想定しています。

- このモデル組織では、エンドポイントの標準として 11,000 台のインテル® vPro®ベースのデバイスを維持しており、10,000 人の従業員が

10,000 台のエンドポイントのノート PC とデスクトップ PC を使用しています。さらに、1,000 台のリモート対応のキオスク端末がインテル® vPro®ベースのハードウェアとともに導入され、顧客が使用しています。デバイスは 3.5 年半ごとに更新されます。

「これまでに（インテル）vPro を正当化する必要があり、時折、経営陣からなぜ安いマシンを購入しないのかと尋ねられたことがあります。その理由は、マシンのコストが総所有コストの一部に過ぎないからです。環境全体のアーキテクチャを考慮する必要があります。」

行政機関、フロントエンド環境責任者

- さらに毎年 1.5% のノート PC とデスクトップ PC がバックアップと予備として準備されています。
- このモデル組織は、インテル® vPro® ベースのデバイスごとに平均 1,282 ドルを支払っていますが、これに対し、インテル® vPro® ベース以外の同等のデバイスには 1,150 ドルを支払っています。これは、モデル組織が管理するインテル® vPro® ベースのデバイスごとに対する 132 ドルの割増コストです。
- この分析では、インテル® vPro® ベースの環境を維持するための機会コストを計算し、モデル組織がエンドポイントデバイスを毎年均等に従業員に更新していると仮定します。
- リモート対応のキオスク端末にインテル® vPro® を搭載するための割増コストは、エンドポイントデバイスと同等の割増しであると仮定されています。

リスク: Forrester は、これらの結果が必ずしもすべての体験を表している訳ではなく、その影響はいくつかの要因によって異なることを認識しています。

- インタビュー対象者とアンケート回答者は一貫してインテル® vPro® ベースのデバイスに割増コストを支払っていますが、割増し自体はデバイスモデル、市場、注文数量によって大きく異なります。
- エンドポイントの標準としてインテル® vPro® に移行する初期コストは、従業員の大部分が同時に移行される場合、時間をかけて段階的に導入するよりも高くなる可能性があります。

結果。 これらのリスクを反映させるため、Forrester はこの利益を 10% 上方修正し、3 年間のリスク調整後の PV 総額（10% 割引）を 120 万ドルとしました。

「インテル® vPro® を削除してコストを削減しようとした場合、他のものにより多くのコストがかかると思います。」

金融サービス部門、IT アーキテクチャエグゼクティブアドバイザー

インテル® vPro®ベースのデバイスのハードウェアコストの増加

参照コード	指標	ソース	初期	1年目	2年目	3年目
H1	エンドポイントデバイスの数	モデル組織	0	11,000	11,000	11,000
H2	デバイスの更新頻度	モデル組織	3.5	3.5	3.5	3.5
H3	計画されている新しいノート PC およびデスクトップ PC の提供数（四捨五入）	H1/H2	0	3,143	3,143	3,143
H4	追加の新しいノート PC およびデスクトップ PC の提供数（1.5%の追加の予備機を含む）	H1*1.5%	0	165	165	165
H5	インテル® vPro®以外のエンドポイントデバイスの平均コスト	アンケート調査とインタビュー	\$1,150	\$1,150	\$1,150	\$1,150
H6	インテル® vPro®エンドポイントデバイスの平均コスト	アンケート調査とインタビュー	\$1,282	\$1,282	\$1,282	\$1,282
Ht	インテル® vPro®ベースのデバイスのハードウェアコストの増加	(H3+H4)*(H6-H5)	\$0	\$436,656	\$436,656	\$436,656
	リスク調整	↑10%				
Htr	インテル® vPro®ベースのデバイスのハードウェアコストの増加（リスク調整後）		\$0	\$480,322	\$480,322	\$480,322
3年間の合計: 1,440,965 ドル			3年間の現在価値: 1,194,489 ドル			

追加のセキュリティチケットのための労働力

エビデンスとデータ。 インテル® vPro®のハードウェアによるセキュリティ技術は、より多くのセキュリティチケットと脅威が関連しており、これによりITチームはレビューや調査に追加の時間を費やす必要があります。

- インタビュー対象者は、インテル® vPro®ベースのデバイスおよびインテルのハードウェアシールドを備えた環境では、より多くのセキュリティリスクが特定され、組織内でより多くのセキュリティチケットが作成される結果となったと述べています。
- インテル® vPro®を標準として使用している調査された組織は、インテル以外のデバイスを使用している組織と比較して、年間平均でセキュリティチケットと低レベルのインシデントが115件多いと報告しています。ただし、これらの組織は高レベルのエスカレーションが少ないと報

告しており、これは組織が脅威が進行する前の初期段階でより多くの対処を行っていることを示しています。

モデル化と想定。 Forrester は、インタビューとアンケート調査データを活用して、モデル組織の財務的影響をモデル化し、以下のように想定しています。

- インテル® vPro®ベースの環境では、モデル組織は100台あたり3.25件のセキュリティチケットを受け取っています。ただし、これはインテル® vPro®ベース以外のエンドポイント環境では100台あたり2.00件のセキュリティチケットに過ぎません。
- 各セキュリティチケットの解決には1.0時間必要です。これには、セキュリティ侵害に対処するコストは含まれません。
- IT担当者の平均的な給与は、完全負担給与で1時間あたり50ドルです。

リスク: Forrester は、これらの結果が必ずしもすべての体験を表している訳ではなく、その影響はいくつかの要因によって異なることを認識しています。

- 経験の浅い IT 部門の FTE は、この分析で使用されている平均値よりもセキュリティチケットを解決するのにより多くの時間がかかる可能性があります。

- IT 部門の FTE は、より複雑な環境や組織ではセキュリティチケットを解決するのにより多くの時間を要する可能性があり、その結果、人件費がより高くなると思われます。

結果。これらのリスクを反映させるため、Forrester はこの利益を 10% 上方調整し、リスク調整後の 3 年間の総現在価値(PV)を 19,000 ドルとしました。

追加のセキュリティチケットにかかった人件費

参照コード	指標	ソース	初期	1 年目	2 年目	3 年目
l1	インテル® vPro®ベースのデバイス数	モデル組織	0	11,000	11,000	11,000
l2	インテル® vPro®ベースのデバイス 100 台あたりのセキュリティチケット件数	アンケート調査	3.25	3.25	3.25	3.25
l3	インテル® vPro®ベース以外のデバイス 100 台あたりのセキュリティチケット件数	アンケート調査	2.00	2.00	2.00	2.00
l4	解決すべき追加のセキュリティチケット	$l1/100 * (l2-l3)$	0	138	138	138
l5	セキュリティチケット 1 枚あたりの労働時間	アンケート調査	1.0	1.0	1.0	1.0
l6	IT の時給 (すべての経費を含む)	モデル組織	\$50	\$50	\$50	\$50
lt	追加のセキュリティチケットにかかった人件費	$l4 * l5 * l6$	\$0	\$6,900	\$6,900	\$6,900
	リスク調整	↑10%				
ltr	追加のセキュリティチケットにかかった人件費 (リスク調整後)		\$0	\$7,590	\$7,590	\$7,590
3 年間の合計: 22,770 ドル			3 年間の現在価値: 18,875 ドル			

IT 担当者にインテル® VPRO®の技術をトレーニングするための人件費

エビデンスとデータ。一部のインタビュー対象者およびアンケート回答者の組織では、インテル® vPro®の技術、例えばインテル EMA を使用するために、IT 担当者に追加のトレーニング時間を費やしました。これは、インテル® vPro®が追加で導入された場合、一回限りのトレーニングとして行われ、新しいIT 担当者が採用されるごとに行われました。

- 通常、IT 担当者はインテル EMA やその他のインテルの技術の使用方法を学ぶために3~5日を費やしました。この後、このIT 担当者に継続的なトレーニングは必要ありませんでした。
- 他のインタビュー対象者は、IT 担当者がインテル® vPro®の技術について最小限のトレーニングしか必要としないことを見出したので、追加のトレーニング時間は必要なく、インテル® vPro®をエンドポイントの標準として維持するためのコストとは見なされませんでした。

モデル化と想定。 Forrester は、インタビューとアンケート調査データを活用して、モデル組織の財務的影響をモデル化し、以下のように想定しています。

- IT 部門の合計 70 人分の FTE が、モデル組織の 10,000 台の従業員用エンドポイントデバイスと 1,000 台のリモート対応のキオスク端末の一次管理を担当しています。
- IT 部門のそれぞれの FTE は、インテル® vPro®の技術と機能を最大限に活用するために、最初の 30 時間をトレーニングに費やします。
- 控え目な見積もりとして、この分析ではインテル® vPro®がすでにエンドポイントの標準であるにも関わらず、すべての IT 部門の FTE がこの 3 年間の分析の初めに該当するトレーニングを受けるものと仮定しています。
- IT 部門の FTE は毎年 15%の離職率があり、新しい FTE が初めて採用された際に 30 時間のトレーニングを受ける必要があります。
- IT 担当者の平均的な給与は、完全負担給与で 1 時間あたり 50 ドルです。

「インテルは親切にも、vPro を環境に統合するために現場のエンジニアを手配してくれました。また、デスクトップのセキュリティをアップグレードする上でも尽力してくれました。」

政府機関、フロントエンドサポートマネージャー

リスク: Forrester は、これらの結果が必ずしもすべての体験を表している訳ではなく、その影響はいくつかの要因によって異なることを認識しています。

- IT 部門の FTES がインテル® vPro®を活用するためのトレーニング時間は 30 時間を超えていませんが、インテル® vPro®を使用して追加の技術を構築する組織では、初期トレーニング時間が長くなる可能性があります。
- 一部の組織は、トレーニングセッションを実施するためにプロフェッショナルサービスグループに対価を支払うことで、IT 部門の FTE の労働時間以外にも追加のコストが発生する可能性があります。

結果。 これらのリスクを反映させるため、Forrester はこのコストを 15%上方修正し、リスク調整後の 3 年間の現在価値(PV)総額を 168,000 ドルとしました。

「インテルは当社の人件費を節約してくれます。追加の諸経費は一切かかっていません。」

政府機関、フロントエンドサポートマネージャー

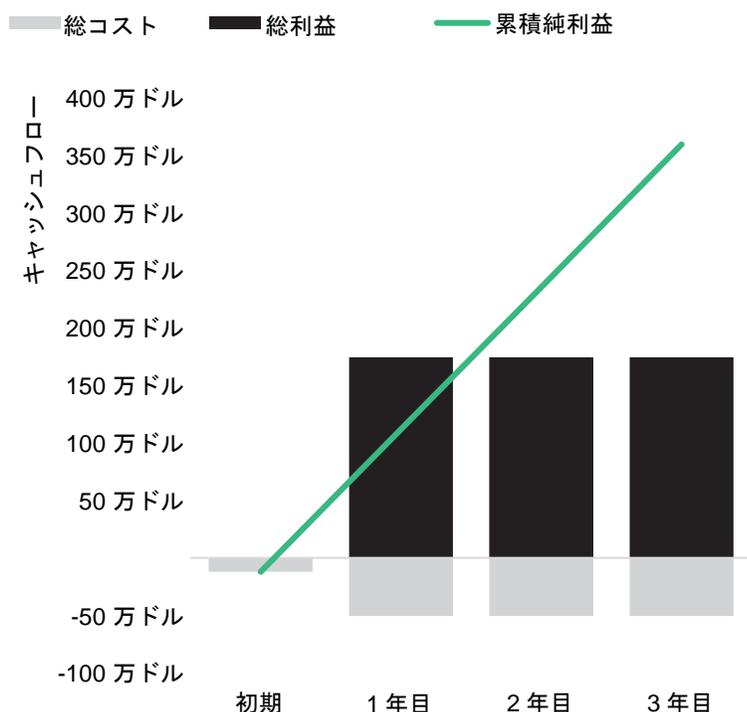
IT 担当者にインテル® vPro®の技術をトレーニングするために追加で必要となる人件費

参照コード	指標	ソース	初期	1年目	2年目	3年目
J1	インテル® vPro®の技術に関するトレーニングが必要な IT 部門の FTE 数	モデル組織、15%減	70	11	11	11
J2	IT 分野の FTE あたりのインテル® vPro®の技術に関するトレーニング時間	インタビュー	30	30	30	30
J3	IT 部門の FTE（完全負担）の時給	モデル組織	\$50	\$50	\$50	\$50
Jt	トレーニングのために追加で必要となる人件費	J1*J2*J3	\$105,000	\$16,500	\$16,500	\$16,500
	リスク調整	↑15%				
Jtr	トレーニングのために追加で必要となる人件費（リスク調整後）		\$120,750	\$18,975	\$18,975	\$18,975
3年間の合計: 177,675 ドル			3年間の現在価値: 167,938 ドル			

財務サマリー

リスク調整後の3年連結評価

キャッシュフローチャート（リスク調整後）



「利益」と「コスト」のセクションで計算された財務的結果を使用して、このモデル組織の投資に対するROI、NPV および回収期間を決定できます。Forrester は、この分析において年10%の割引率を想定しています。

リスク調整後のこれらのROI、NPV、回収期間の値は、「利益」と「コスト」の各セクションの未調整結果にリスク調整因子を適用することで決定されます。

キャッシュフロー分析（リスク調整後の予測値）

	初期	1年目	2年目	3年目	合計	現在価値
総コスト	(\$120,750)	(\$506,887)	(\$506,887)	(\$506,887)	(\$1,641,410)	(\$1,381,302)
総利益	\$0	\$1,738,330	\$1,738,330	\$1,738,330	\$5,214,990	\$4,322,969
純利益	(\$120,750)	\$1,231,443	\$1,231,443	\$1,231,443	\$3,573,580	\$2,941,667
投資収益率(ROI)						213%
回収期間						6か月未満

付録 A: Total Economic Impact

Total Economic Impact (TEI: 総経済効果) は Forrester Research が開発した手法であり、テクノロジーに関する企業の意思決定プロセスを強化し、ベンダーが製品やサービスの価値提案をクライアントに提示する際に有用となります。TEI 手法を使用することで、企業は経営陣やその他の重要なビジネス関係者に対して、IT イニシアチブの具体的な価値を提示しながら妥当性を証明し、価値をもたらすことができます。

TEI アプローチ

ベネフィットは、この製品によって企業にもたらされた値を表す。TEI 法では、便益の算定と費用の算定に均等の重みを置き、テクノロジーが組織全体に与える影響を細部にわたって検証することを可能にします。

費用は、提案された製品の価値、または便益を実現するために必要なすべての経費を表す。TEI 内の費用カテゴリは、そのソリューションに関連した継続的な費用について、既存環境での漸増費用を把握します。

柔軟性は、すでに行った初期投資に加え、将来の追加投資から得られる戦略的な価値を表す。その便益を把握できる場合、PV を推定できます。

リスクは、1) 概算が当初の予想に合う可能性、2) 概算が経時的に追跡される可能性に基づいて、便益と費用の概算の不確実性を測定します。TEI のリスク要因は、「三角分布」に基づいています。

初期投資の欄には、「時間 0」、すなわち 1 年目の始まりに発生するコストが記載されます。これらのコストには割引率は適用されません。その他すべてのキャッシュフローは、年末時点の割引率を使用して割引されます。現在価値(PV)は、金利(割引率)を用いて算出された(割引された)費用と便益の現在価値または時価の推定。概要表の NPV は、初期投資と各年の割引率適用後のキャッシュフローの合計になります。総利益、総コスト、キャッシュフローの各表における合計と PV の値については、端数処理が行われている場合があります。そのため、総和が正確に一致しないことがあります。

現在価値(PV)

特定の利率(割引率)を使用した(割引後の)コストと利益の推定値の現在価値。コストと利益の PV は、キャッシュフローの総 NPV に組み入れられます。

正味現在価値(NPV)

特定の利率(割引率)を使用した(割引後の)将来の正味キャッシュフローの現在価値。通常、プロジェクトの NPV の値が正であれば、他のプロジェクトの NPV がそれより高くない限り、投資すべきであると考えられます。

投資利益率(ROI)

パーセンテージで表したプロジェクトの期待利益。ROI は、純利益(粗利益からコストを引いた値)をコストで割ることによって求められます。

割引率

金銭の時間価値を考慮するうえで、キャッシュフロー分析において使用される利率。通常、組織は 8%~16% の割引率を使用します。

回収期間

投資金額が回収される損益分岐点。純利益(利益からコストを引いた値)が初期投資額またはコストと等しくなる時点を指します。

環境フットプリント

組織の活動と運営が環境に与える年間の影響で、温室効果ガス排出と汚染、水の使用量、廃棄物の量、原材料と希少資源の利用、野生生物の生息地と生物多様性への影響を測定したものです。



付録 B : インタビュー調査およびアンケート調査の統計データ

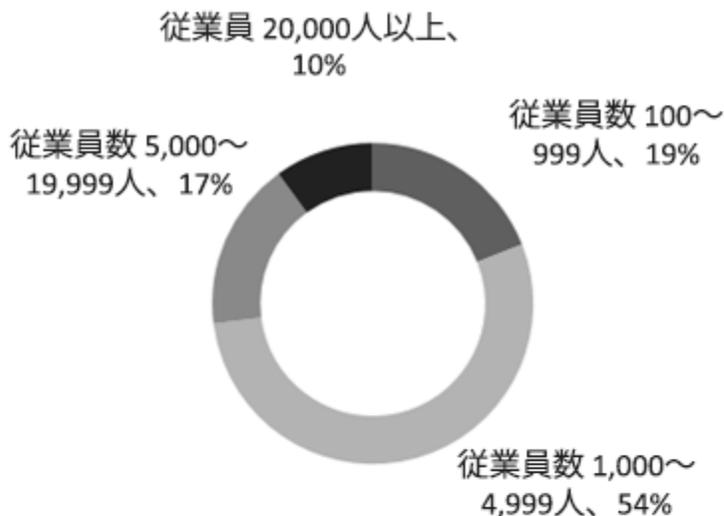
インタビュー

役職	業界	地域	従業員数	インテル® vPro®を使用している Windows ノート PC およびデスクトップ PC のおおよその割合
シニアシステムエンジニア	航空会社	北米	83,000	80%
ハードウェアディレクター	金融サービス	欧州・中東・アフリカ	110,000	90%
IT アーキテクチャエグゼクティブアドバイザー	金融サービス	北米	120,000	100%
最高情報責任者(CIO)	教育	北米	27,500	50%*
フロントエンド環境責任者	行政機関	欧州・中東・アフリカ	21,000	100%
フロントエンドサポートマネージャー	行政機関	欧州・中東・アフリカ	21,000	100%
システムアナリスト	行政機関	欧州・中東・アフリカ	21,000	100%

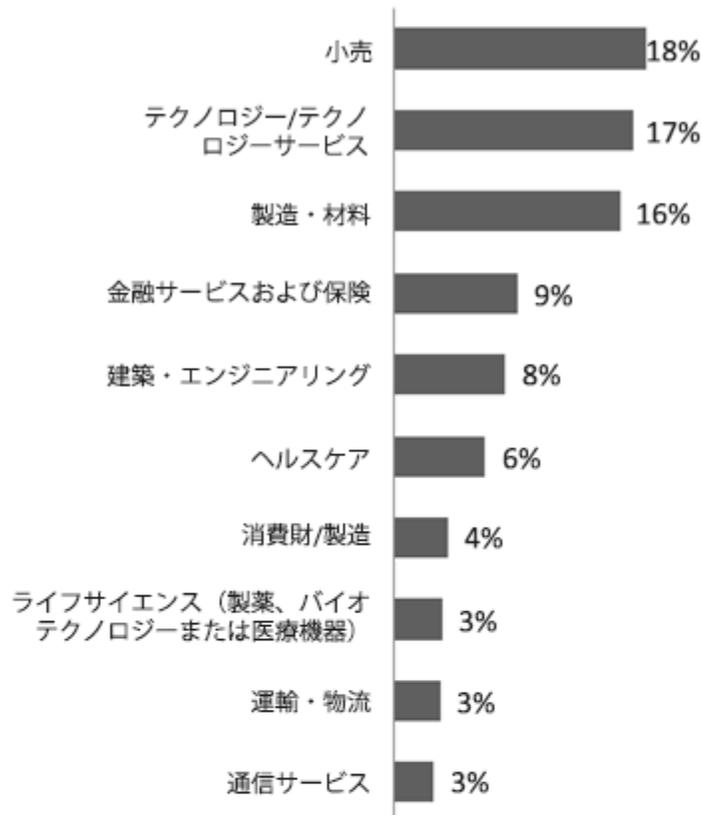
* インタビューの時点で、ある教育機関はインテル® vPro®ベース以外の Windows デバイスを段階的に廃止する過程にあり、今後 2 年以内にほぼすべての Windows デバイスがインテル® vPro®ベースになると推定していました。

アンケート調査対象のデモグラフィック - 2023年7月（エンドポイントの標準としてのインテル® vPro®）

「貴社/組織の従業員数は全世界で何人ですか？
最良推定値を使用できます」



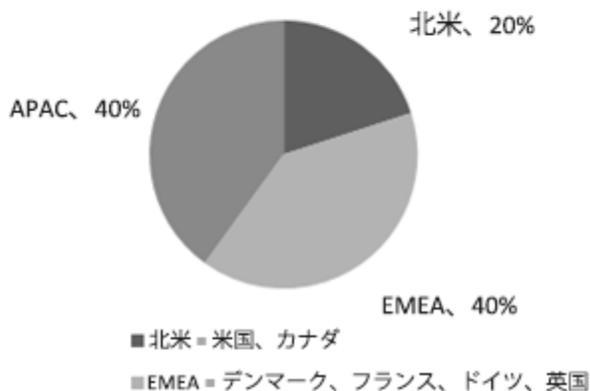
「貴社の業種は次のうちどれに最もよく当てはまりますか？」（上位10業種を表示）



調査対象となったIT企業における意思決定者のエンドポイント環境

質問	平均
「組織全体で、エンドポイントに提供されているノートPC/デスクトップPCの総数は何台ですか？」	7,114
「エンドポイントに提供されるノートPC/デスクトップPC（前回選択した台数）の合計のうち、インテル Coreプロセッサを含む割合は何パーセントと推定されますか？」	82%
「インテル Core™プロセッサを搭載したノートPC/デスクトップPC（前回選択した台数）の合計のうち、インテル® vPro®プラットフォームを使用しているのは何パーセントと推定されますか？」	75%

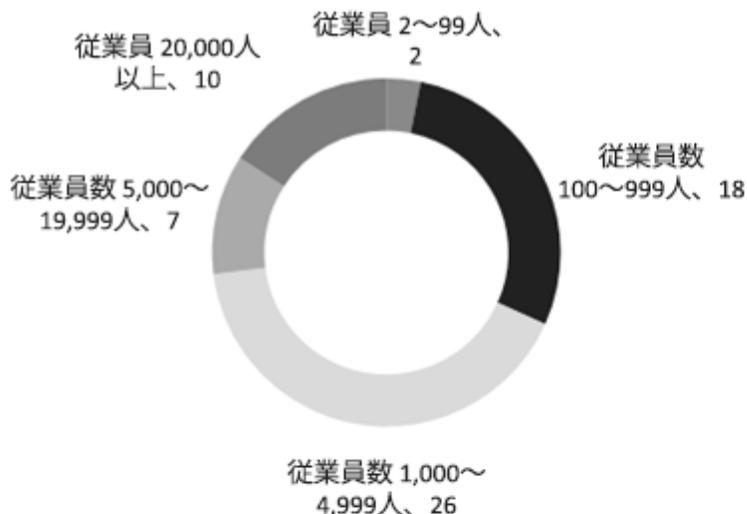
「貴社の所在国をお選びください」



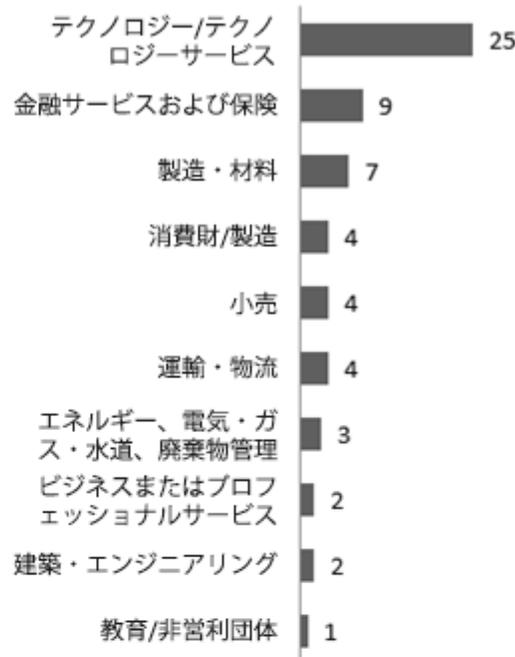
対象: グローバルIT企業における意思決定者500人とインテル® vPro®の顧客
注: 四捨五入で計算しており、パーセントの合計が100%にならない場合があります
出典: インテルの委託によるForrester Consulting実施の調査。2023年7月

アンケート調査対象のデモグラフィック - 2023年8月（インテル® vPro®による環境、社会、ガバナンスへの関心）

「貴社/組織の従業員数は全世界で何人ですか？
最良推定値を使用できます」



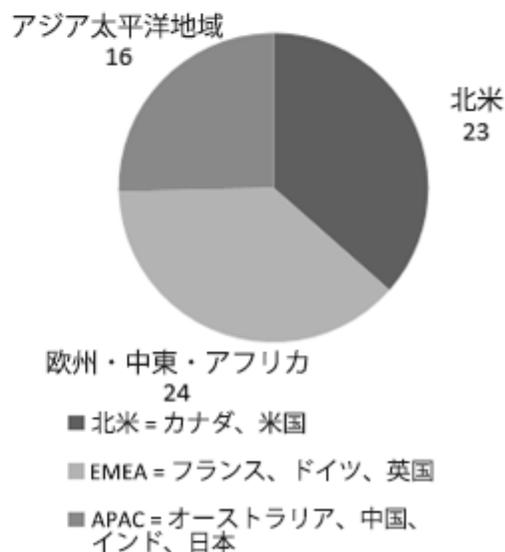
「貴社の業種は次のうちどれに最もよく当てはまりますか？」（上位10業種を表示）



調査対象となったIT企業における意思決定者の
エンドポイント環境

質問	平均
「組織全体で、エンドポイントに提供されているノートPC/デスクトップPCの総数は何台ですか？」	3,307
「エンドポイントに提供されるノートPC/デスクトップPC（前回選択した台数）の合計のうち、インテル Coreプロセッサを含む割合は何パーセントと推定されますか？」	85%
「インテル Core™プロセッサを搭載したノートPC/デスクトップPC（前回選択した台数）の合計のうち、インテル® vPro®プラットフォームを使用しているのは何パーセントと推定されますか？」	74%

「貴社の所在国をお選びください」



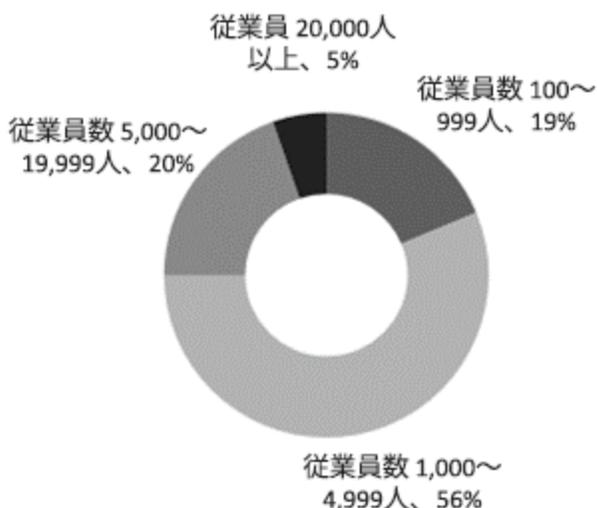
対象: グローバルIT企業における意思決定者63人およびインテル® vPro®顧客

注: 上記グラフの数字は回答者数

出典: インテルの委託によるForrester Consulting実施の調査。2023年7月

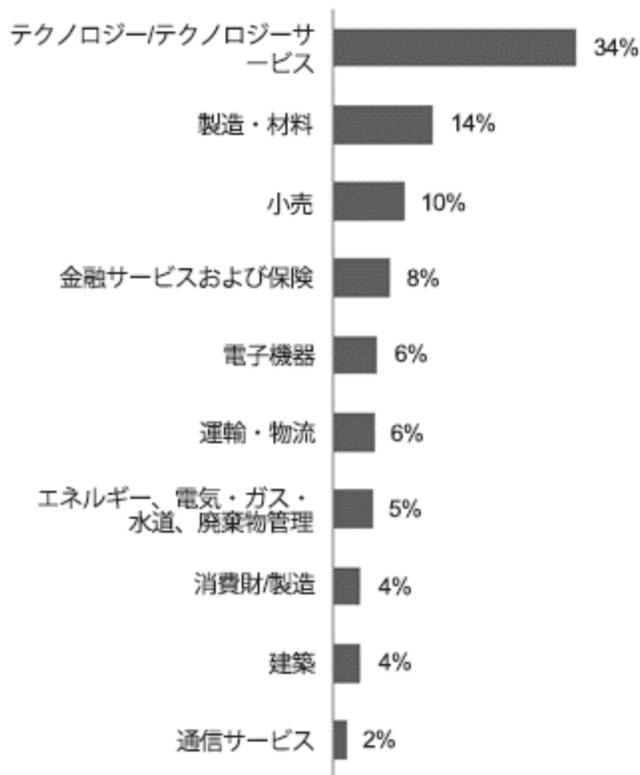
アンケート調査対象のデモグラフィック - 2022年7月（インテルおよびインテル以外の組織のセキュリティ成果）

「貴社/組織の従業員数は全世界で何人ですか？ 最良推定値を使用できます」

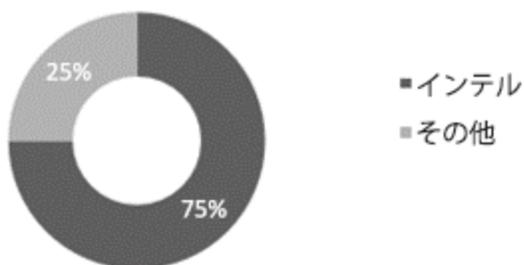


対象: グローバルIT企業における意思決定者63人とインテル® vPro®の顧客

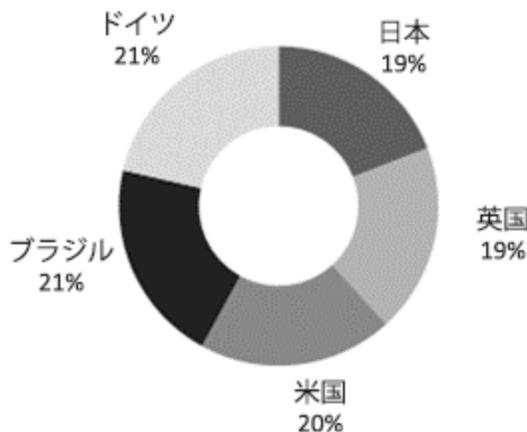
「貴社の業種は次のうちどれに最もよく当てはまりますか？」



「あなたの知る限り、貴社のWindowsノートPCとデスクトップPCで最も一般的なプロセッサメーカーはどれですか？」



「貴社の所在国または所在地域をお選びください」



対象: グローバルIT企業における意思決定者786人およびインテル® vPro®の顧客に加え、世界のIT企業における意思決定者261人およびインテル以外のデバイスを使用している顧客

注: 四捨五入で計算しており、パーセントの合計が100%にならない場合があります

出典: インテルの委託によるForrester Consulting実施の調査。2022年9月

付録 C: 補足情報

Forrester の関連調査

「[IT プラットフォームチームの新しい領域をナビゲートする](#)」、Forrester Research, Inc.、2023 年 9 月 29 日

「[統合エンドポイント管理の状況、2023 年第 3 四半期](#)」、Forrester Research, Inc.、2022 年 7 月 17 日

「[脆弱性リスクへの対応およびパッチ管理の成熟度を評価する](#)」、Forrester Research, Inc.、2022 年 7 月 10 日

「[ケーススタディ: インテルが顧客志向を体系的に向上させる方法](#)」、Forrester Research, Inc.、2022 年 11 月 17 日

付録 D: 注釈

¹ Total Economic Impact は Forrester Research が開発した手法であり、テクノロジーに関する企業の意思決定プロセスを強化し、ベンダーが製品やサービスの価値提案をクライアントに提示するうえで有用となります。TEI 手法を使用することで、企業は経営陣やその他の重要なビジネス関係者に対して、IT イニシアチブの具体的な価値を提示しながら妥当性を証明し、価値をもたらすことができます。

² 組織が環境への影響を軽減するという目標を達成するのに役立つインテル® vPro®の利点とコストをより理解するために、63 人の回答者を対象とした二次調査も実施されました。さらに、インテル® vPro のハードウェア対応セキュリティが組織のセキュリティ向上に与えた影響をよりよく理解する手段として、786 人の回答者を対象とした過去の Forrester TEI の委託調査データが参照されました。出典: 「インテル® vPro®のハードウェア対応セキュリティ機能の総合的な総経済効果™」、インテル委託による Forrester Consulting 調査 (2022 年)。

³ この段落で言及されている割合は、500 人の世界的な IT 企業の意思決定者と、エンドポイント管理を担当するインテル® vPro®の顧客が「インテル® vPro®を標準プラットフォームとして選択することで、従業員のパフォーマンスと生産性の向上という点において、どのような課題や組織の目標に対処したいと考えましたか?」という質問に回答した結果に基づいています。出典: インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2023 年 7 月。

⁴ この段落で言及されている割合は、500 人の世界的な IT 企業の意思決定者と、エンドポイント管理を担当するインテル® vPro®の顧客が「インテル® vPro®を標準プラットフォームとして選択することで、IT およびエンドポイントの管理コストの削減という点において、どのような課題や組織の目標に対処したいと考えましたか?」という質問に回答した結果に基づいています。出典: インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2023 年 7 月。

⁵ この段落で言及されている割合は、500 人の世界的な IT 企業の意思決定者と、エンドポイント管理を担当するインテル® vPro®の顧客が「インテル® vPro®を標準プラットフォームとして選択することで、ハイブリッド/リモートワークフォースのサポートを改善するという点において、どのような課題や組織の目標に対処したいと考えましたか?」という質問に回答した結果に基づいています。出典: インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2023 年 7 月。

⁶ 「2024 年の予測: サイバーセキュリティ、リスク、プライバシー」 Forrester Research, Inc.、2023 年 10 月 31 日

⁷ この段落で言及されている割合は、500 人の世界的な IT 企業の意思決定者と、エンドポイント管理を担当するインテル® vPro®の顧客が「インテル® vPro®を標準プラットフォームとして選択することで、シリコンセキュリティ機能を使用して、セキュリティ予防の姿勢を改善するという点において、どのような課題や組織の目標に対処し

たいと考えましたか？」という質問に回答した結果に基づいています。出典: インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2023 年 7 月。

⁸ この段落で言及されている割合は、世界中の IT 企業の意味決定者 500 人およびインテル® vPro®の顧客で、エンドポイント管理の責任を持つ人々が、「インテル® vPro®を標準として使用することで会社にもたらされるメリットについて、どの程度同意しますか？」という質問に対して「デバイスの認証と導入が速くなった」と答えた割合、そして同様の質問に対して「パッチの効率が向上した」と答えた割合に基づいています。出典: インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2023 年 7 月。

⁹ この段落で言及されている割合は、世界中の IT 企業の意味決定者 500 人およびインテル® vPro®の顧客で、エンドポイント管理の責任を持つ人々が、「インテル® vPro®を標準として使用することで会社にもたらされるメリットについて、どの程度同意しますか？」という質問に対して、「IT 管理とサポートが簡単になった」と評価する割合に基づいています。出典: インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2023 年 7 月。

¹⁰ この段落で言及されている割合は、世界中の 444 人の IT 意思決定者およびエンドポイント管理責任を持つインテル® vPro® 顧客の質問「インテル® vPro®を使用することにより、IT 担当者が組織を管理しサポートするのが簡単になった。」への回答に基づいています。インテル® vPro®を使用することで、エンドポイントデバイスの管理時間は（平均して）何パーセント短縮されましたか？」出典: インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2023 年 7 月。

¹¹ この段落で言及されている割合は、世界中の IT 企業の意味決定者 500 人およびインテル® vPro®の顧客で、エンドポイント管理の責任を持つ人々が、「インテル® vPro®を標準として使用することで会社にもたらされるメリットについて、どの程度同意しますか？」という質問に対して、「サポートチケットが減少した」と評価する割合に基づいています。出典: インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2023 年 7 月。

¹² この段落で言及されている割合は、世界中の IT 企業の意味決定者 500 人およびインテル® vPro®の顧客で、エンドポイント管理の責任を持つ人々が、「インテル® vPro®を標準として使用することで会社にもたらされるメリットについて、どの程度同意しますか？」という質問に対して、「現場訪問が減少した」と評価する割合に基づいています。出典: インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2023 年 7 月。

¹³ この段落で言及されている割合は、世界中の IT 企業の意味決定者 500 人およびインテル® vPro®の顧客で、エンドポイント管理の責任を持つ人々が、「インテル® vPro®を標準として使用することで会社にもたらされるメリットについて、どの程度同意しますか？」という質問に対して、「従業員のパフォーマンス/生産性の向上」、「協力体制の向上」、「ダウンタイムの短縮」という評価の割合に基づいています。出典: インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2023 年 7 月。

¹⁴ この段落で言及されている割合は、「過去 1 年間に、組織の（プロセッサ）を搭載した（デバイス）で発生したセキュリティ侵害の件数を教えてください。」という質問に回答したエンドポイント管理責任を持つグローバル IT 企業の意味決定者 719 人の回答に基づいています。出典: 「インテル® vPro®のハードウェア対応セキュリティ機能の総合的な総経済効果™」、インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2022 年。

¹⁵ この段落で言及されている割合は、「組織が過去 12 か月以内に以下のいずれかの侵害に直面しましたか？」という質問に回答したエンドポイント管理責任を持つグローバル IT 企業の意味決定者 239 人の回答に基づいています。出典: 「インテル® vPro®のハードウェア対応セキュリティ機能の総合的な総経済効果™」、インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2022 年。

16 この段落で言及されている割合は、「以前、組織が過去 12 か月以内に侵害に直面したことを指摘しましたが、その侵害誘因は何でしたか？」という質問に回答したエンドポイント管理責任を持つグローバル IT 企業の意味決定者 239 人の回答に基づいています。出典: 「インテル® vPro®のハードウェア対応セキュリティ機能の総合的な総経済効果™」、インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2022 年。

17 この段落で言及されている割合は、「直近の情報漏えいについて、組織が情報漏えいから復旧するまでにかかった時間はどのくらいですか？」という質問に回答したエンドポイント管理責任を持つグローバル IT 企業の意味決定者 238 人の回答に基づいています。出典: 「インテル® vPro®のハードウェア対応セキュリティ機能の総合的な総経済効果™」、インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2022 年。

18 アンケート調査データの表現に使用された情報は、「Forrester Consulting サイバーセキュリティ侵害のコスト調査、2021 年 Q1」から引用したものです。

19 この段落で言及されている割合は、グローバル IT 企業の意味決定者 500 人およびインテル® vPro®の顧客で、エンドポイント管理の責任を持つ人々が、「インテル® vPro®を標準として使用することでメリットが得られることについて、どの程度同意しますか？」という質問に対して、「セキュリティインシデントや侵害が少ない」、「個人データが盗まれるリスクが少ない」、「ハードウェア対応のセキュリティによってステークホルダーの信頼が向上している」という評価の割合に基づいています。出典: インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2023 年 7 月。

20 この段落で言及されている割合は、世界中の IT 企業の意味決定者 500 人およびインテル® vPro®の顧客で、エンドポイント管理の責任を持つ人々が、「インテル® vPro®を標準として使用することで会社にもたらされるメリットについて、どの程度同意しますか？」という質問に対して、「サードパーティ ソフトウェアとサービスを削減した」と評価する割合に基づいています。出典: インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2023 年 7 月。

21 出典: 「[温室効果ガス当量計算機](#)」、epa.gov、2023 年 11 月 14 日閲覧

22 出典: 「[1 航空マイル](#)」、bluskymodel.org、2023 年 11 月 14 日閲覧

23 この段落で言及されている割合は、世界中の IT 企業の意味決定者 500 人およびインテル® vPro®の顧客で、エンドポイント管理の責任を持つ人々が、「インテル® vPro®を標準として使用することで会社にもたらされるメリットについて、どの程度同意しますか？」という質問に対して、「従業員のパフォーマンスと生産性が向上した」と評価する割合に基づいています。出典: インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2023 年 7 月。

24 この段落で言及されている割合は、世界中の IT 企業の意味決定者 500 人およびインテル® vPro®の顧客で、エンドポイント管理の責任を持つ人々が、「インテル® vPro®を標準として使用することで会社にもたらされるメリットについて、どの程度同意しますか？」という質問に対して、「デバイスのリセールバリューが高い」と評価する割合に基づいています。出典: インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2023 年 7 月。

25 この段落で言及されている割合は、世界中の IT 企業の意味決定者 500 人およびインテル® vPro®の顧客で、エンドポイント管理の責任を持つ人々が、「インテル® vPro®を標準として使用することで会社にもたらされるメリットについて、どの程度同意しますか？」という質問に対して、「MSP サポートに容易にアクセスできる」と評価する割合に基づいています。出典: インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2023 年 7 月。

²⁶ この段落で言及されている割合は、エンドポイント管理責任を持つグローバル IT 企業の意思決定者 239 人が「情報漏えいが組織にどのような影響を与えましたか？」という質問に対して「顧客を損失した」と回答したことに基づいています。出典: インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2022 年 9 月。

²⁷ この段落で言及されている割合は、エンドポイント管理責任を持つグローバル IT 企業の意思決定者 239 人が「情報漏えいが組織にどのような影響を与えましたか？」という質問に対して「パートナーエコシステムからの信頼が低下した」と回答したことに基づいています。出典: インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2022 年 9 月。

²⁸ この段落で言及されている割合は、エンドポイント管理を担当するグローバル IT 企業の意思決定者およびインテル® vPro®の顧客 54 人が、「インテル® vPro®によってより広範な技術のエコシステムを利用できるようになったと回答しました。これにはどのような追加の技術が含まれますか？」という質問の回答に基づいています。出典: インテルの委託による Forrester Consulting 実施の調査。2023 年 8 月。

²⁹ 「[Master The Messy Middle Of Hybrid](#)」、Forrester Research, Inc.、2022 年 9 月 28 日

³⁰ 「[The Future Of Endpoint Management And Security Is Now](#)」、Forrester Research, Inc.、2022 年 9 月 1 日。

FORRESTER®